

中央区子ども・子育て支援新制度に おける利用希望把握調査 報告書

(概要版)

平成26(2014)年3月



中央区子ども・子育て支援新制度における利用希望把握調査報告書 概要版

目次

I. 調査概要

1. 調査の目的	1
2. 調査・分析の方法及び集計の表示について	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査時期	1
(3) 調査方法	1
(4) 回収結果	1
(5) 報告書の見方	1
(6) クロス集計表の見方	2

II. 調査結果

1. 対象児童と家族の状況について	4
(1) 子育てを主に行っている方	4
2. 子どもの育ちをめぐる環境について	4
(1) 子育てに対する支え	4
(2) 子育てに関する相談先（人・施設等）	5
3. 保護者の就労状況について	5
(1) 世帯（父親と母親）の就労状況	5
(2) 父親の就労状況	8
(3) 母親の就労状況	9
4. 平日の定期的な教育及び保育の施設・事業の利用状況について（就学前児童）	11
(1) 年齢別の定期的な教育・保育の事業の利用有無	11
(2) 定期的な教育・保育の事業の利用状況と今後の利用希望	12
(3) 定期的な教育・保育の事業の利用日数・利用時間	14
(4) 定期的な教育・保育の事業を利用している理由	16
(5) 定期的な教育・保育の事業を利用していない理由	17
5. 地域の子育て支援事業の利用状況について（就学前児童）	18
(1) 各事業の認知度、利用有無及び利用時の満足度、今後の利用意向	18
6. 土曜・休日などの「定期的」な教育及び保育の施設・事業の利用希望について（就学前児童）	20
(1) 土曜日の教育・保育の施設・事業の利用希望	20
(2) 休日（日曜・祝日）の教育・保育の施設・事業の利用希望	21
(3) 年末年始の定期的な教育・保育の施設・事業の利用希望	22
(4) 幼稚園利用者の夏休みなど長期休暇中の利用希望	24

7. 病気やケガの際の対応について.....	25
(1) 子どもが病気やケガをした際の対応.....	25
(2) 就労している保護者が子どもを看た人の病児・病後児保育の利用希望.....	26
8. 不定期な教育及び保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用について.....	27
(1) 不定期な教育及び保育事業の利用状況.....	27
(2) 不定期な教育及び保育事業の利用希望.....	28
(3) 泊まりがけで預けなければならなかった場合の対処方法.....	30
9. 小学校就学後の放課後の過ごし方について(5歳児のみ).....	31
(1) 放課後の過ごし方について.....	31
(2) 学童クラブ、子どもの居場所「プレディ」の利用希望.....	32
(3) 学童クラブを利用したい理由.....	34
(4) 子どもの居場所「プレディ」を利用したい理由.....	35
10. 放課後の過ごし方について(小学校児童).....	36
(1) 放課後の過ごし方について.....	36
(2) 学童クラブ、子どもの居場所「プレディ」の利用希望.....	37
(3) 学童クラブを利用したい理由.....	39
(4) 子どもの居場所「プレディ」を利用したい理由.....	40
11. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について(就学前児童).....	41
(1) 育児休業制度の取得状況.....	41
(2) 育児休業の取得後の職場復帰.....	41
12. 子どもの育ちや発達について.....	43
(1) 子どもの育ちや発達について.....	43

I 調査概要

1. 調査の目的

子ども・子育て支援法に基づき、平成 26 年度に子ども・子育て支援事業計画を策定するため、必要な情報の収集、分析及び計画素案の作成等を行うとともに、計画の策定に向けて設置する策定検討会議を円滑に運営するための補助を行う。

2. 調査・分析の方法及び集計の表示について

(1) 調査対象

①就学前児童

- ・ 2,520 名を住民基本台帳から、以下の条件をもとに無作為で抽出
- ・ 3 地域（京橋・日本橋・月島）で均等
- ・ 0～5 歳の年齢で均等（平成 25 年度の保育所歳児 0～5 歳。（学年と同様の考え方：平成 19 年 4 月 2 日～平成 25 年 4 月 1 日までの間に生まれた子ども）
- ・ 男女比均等

②小学校児童

- ・ 1,512 名を住民基本台帳から、以下の条件をもとに無作為で抽出
- ・ 3 地域（京橋・日本橋・月島）で均等
- ・ 小 1～小 6 までの学年で均等（平成 13 年 4 月 2 日～平成 19 年 4 月 1 日までの間に生まれた子ども）
- ・ 男女比均等

③その他の条件

- ・ ①、②とも外国人を除く。
- ・ 1 世帯に複数の調査票が送付されることを避けるため、同一世帯内のきょうだい数で重複しないよう抽出時に配慮する。

(2) 調査時期

平成 25 年 10 月 25 日～平成 25 年 11 月 15 日

(3) 調査方法

- ・ 郵送配布、郵送回収により調査を実施

(4) 回収結果

- ・ 発送数：4,032 件（うち就学前児童 2,520 名、小学校児童 1,512 名）
- ・ 回収数：2,490 件（うち就学前児童 1,634 名、小学校児童 856 名）
- ・ 回収率：61.7%（うち就学前児童 64.8%、小学校児童 56.6%）

(5) 報告書の見方

- ・ 回答の比率（%）について

回答の比率（%）は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。同様に、複数回答の設問では、すべての比率の合計が 100%にならない場合がある。

- ・ 図表の記載にあたっての選択肢の表記について

本報告書における図表の記載にあたっては、調査票の選択肢の表記を一部簡略化している場合がある。

・集計及び分析について

設問ごとに回答者の全体の傾向を捉えるため、設問に対する回答の「単純集計」と「クロス集計」を行い、その特徴等を分析している。なお、クロス集計を行った際、回答の件数が少ないものについては分析に偏りを生じるため、分析の対象からは除いている。

・複数回答について

1つの設問に対して複数の回答がある場合、クロス集計の「合計」欄の数値は実際の回答者の実人数と比率（常に100%）を表示しており、全ての回答数の合計と比率の合計とは一致しない。

・集計結果の掲載順序について

本報告書では、調査ごとに集計結果を掲載している。集計結果の掲載順序は目次のとおりである。

・「N」の表示について

グラフ内の「N」は、設問に対する回答者の数である。

（6）クロス集計表の見方

クロス集計では、内閣府が提示する「市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出等のための手引き」をもとにした「家庭類型の分類」を使用している。（下記表参照）アンケート調査結果を活用し、対象となる配偶者の有無、父親・母親の就労状況から「現在の家庭類型」を求める。家庭類型の種類の、タイプAからタイプFの8種類となっている。

なお、保育の必要性の下限時間は、現行制度の入所要件（3日・4時間以上）から48時間を下限値として取り扱った。

図 現在の家庭類型の種類の種類

父親		母親		3. パートタイム就労 4. 育休・介護休業中			5. 現在は就労していない 6. 就労したことがない
		1. フルタイム就労 2. 育休・介護休業中	120時間以上	48時間以上120時間未満	48時間未満		
タイプA ひとり親							
1. フルタイム就労 2. 育休・介護休業中		タイプB	タイプC	タイプC'		タイプD	
3. パートタイム就労 4. 育休・介護休業中	120時間以上	タイプC	タイプE				
	48時間以上120時間未満						
	48時間未満	タイプC'		タイプE'			
5. 現在は就労していない 6. 就労したことがない			タイプD			タイプF	

中央区の3日・4時間以上の入所要件から、月48時間を下限値として扱う

表 現在の家庭類型の種類

タイプ	父母の有無と就労状況
タイプA	ひとり親家庭（配偶者無し）
タイプB	フルタイム×フルタイム
タイプC	フルタイム×パートタイム （就労時間：月 120 時間以上+48 時間～120 時間の一部 ^注 ）
タイプC'	フルタイム×パートタイム（短） （就労時間：月 48 時間未満+48 時間～120 時間の一部 ^注 ）
タイプD	専業主婦（夫）
タイプE	パートタイム×パートタイム （就労時間：双方が月 120 時間以上+48 時間～120 時間の一部 ^注 ）
タイプE'	パートタイム×パートタイム（短） （就労時間：いずれかが月 48 時間未満+48 時間～120 時間の一部 ^注 ）
タイプF	無業×無業

出典：内閣府 市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出等のための手引き

注 就労時間：48 時間～120 時間の一部の区分け

3～5 歳：平日定期的にご利用している教育・保育の事業で「幼稚園」を利用しており、今後の希望でも「認可保育所」「認定こども園を選択していない」方をタイプ C'・E' に分類し、それ以外をタイプ C・E とした。

0～2 歳：定期的に教育・保育の事業を利用している方については、「保育の事業」を利用している方をタイプ C・E とし、現在利用していない方は、今後の希望で「保育の事業」を希望した方について、タイプ C・E とし、それ以外をタイプ C'・E' とした。

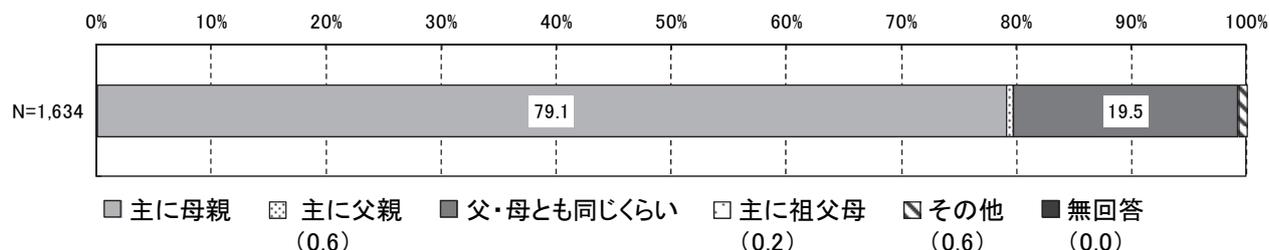
II 調査結果

1. 対象児童と家族の状況について

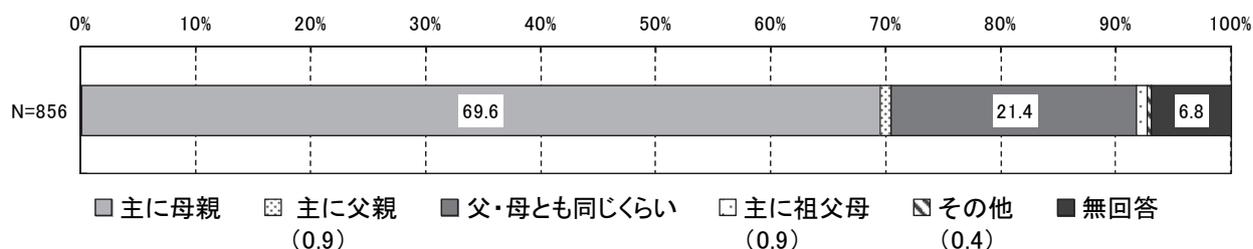
(1) 子育てを主に行っている方

就学前児童・小学校児童ともに、「主に母親」が60%を超え、「父母とも同じくらい」も20%前後となっているが、「主に父親」は1%に満たない。

■就学前児童（単数回答設問）



■小学校児童（単数回答設問）

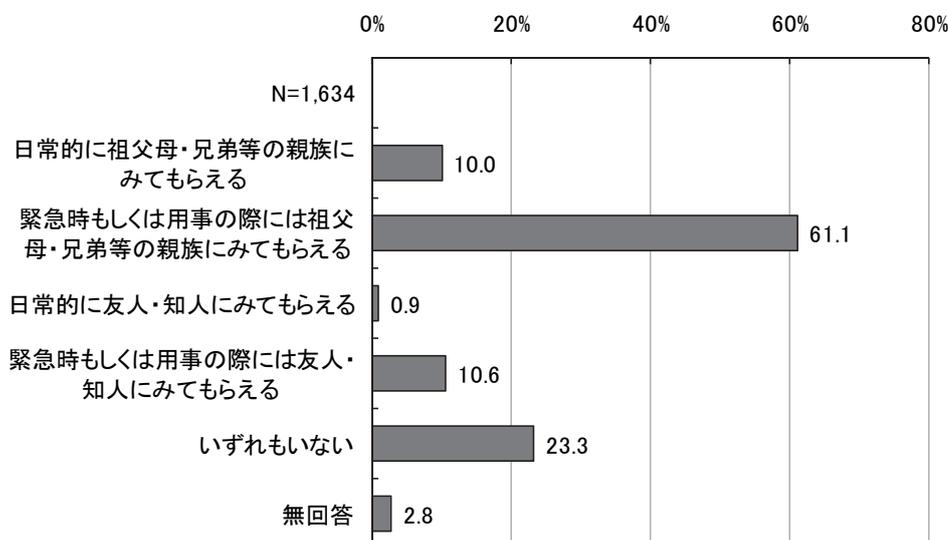


2. 子どもの育ちをめぐる環境について

(1) 子育てに対する支え

「緊急時もしくは用事の際には祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる」は61.1%となっている。「日常的に祖父母・兄弟等の親族にみてもらえる」は10.0%となっている。

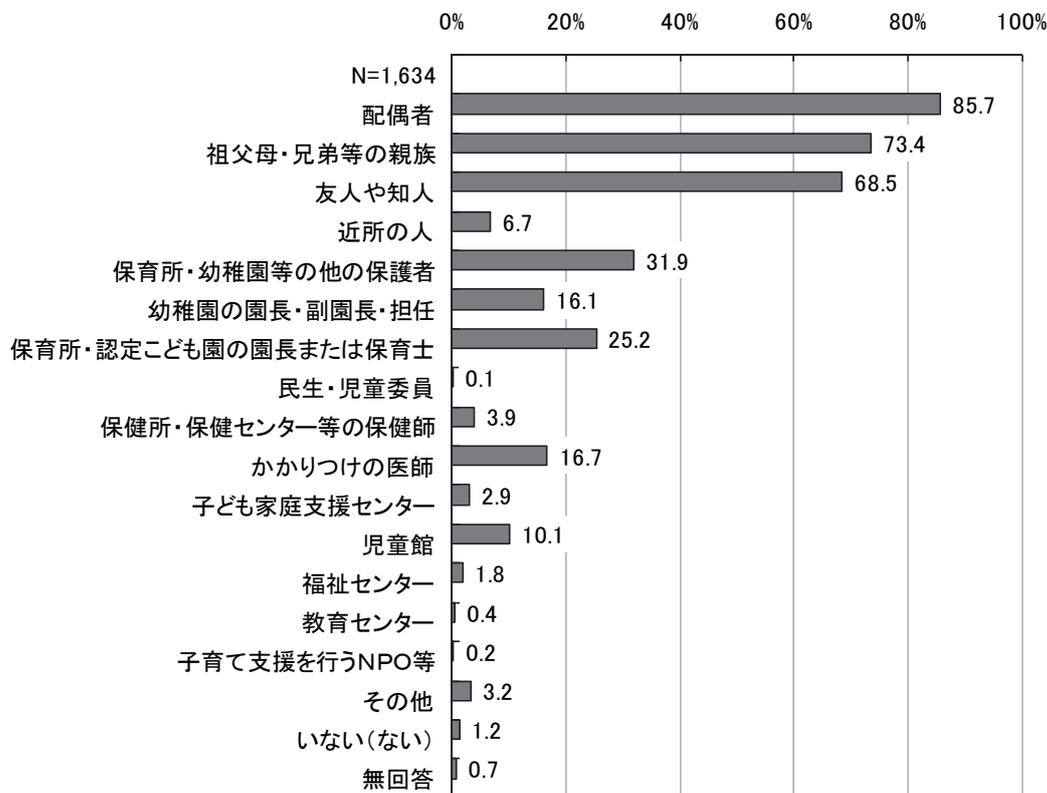
■就学前児童（複数回答設問）



(2) 子育てに関する相談先（人・施設等）

子育てに関する相談先は、「配偶者」85.7%、「祖父母・兄弟等の親族」73.4%、「友人や知人」68.5%の順に多くなっている。

■就学前児童（複数回答設問）



3. 保護者の就労状況について

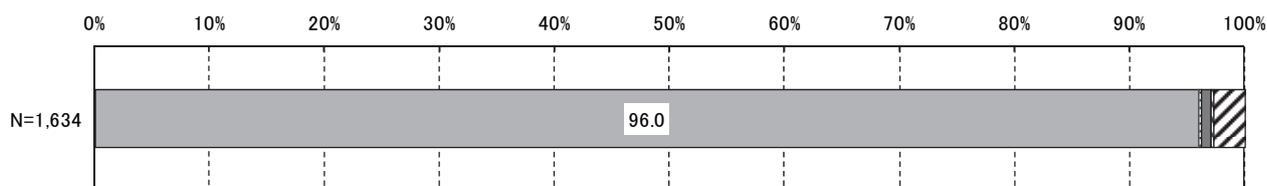
(1) 世帯（父親と母親）の就労状況

父親の「フルタイムで就業しており、育休・介護休業中ではない」は、就学前児童では96.0%、小学校児童では83.4%である。

母親の「パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない」は、就学前児童では11.6%、小学校児童では28.4%である。また、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は、就学前児童では38.7%、小学校児童では27.0%である。

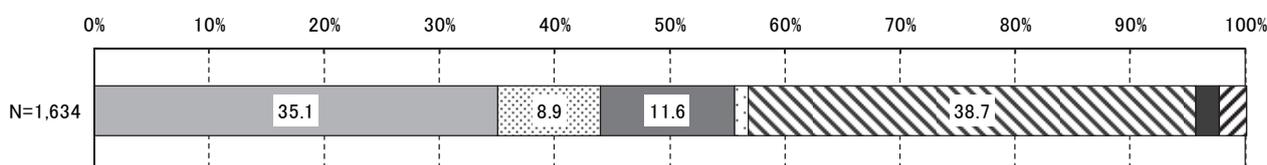
現在家庭類型別の1週当たりの就労日数は、就学前児童と小学校児童のいずれにおいても週5日が最も多くなっている。

■就学前児童（父親：単数回答設問）



- フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない
- ▨ フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中である (0.2)
- パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない (0.9)
- パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中である (0.0)
- ▨ 以前は就労していたが、現在は就労していない (0.2)
- これまで就労したことがない (0.0)
- ▨ 無回答 (2.7)

■就学前児童（母親：単数回答設問）



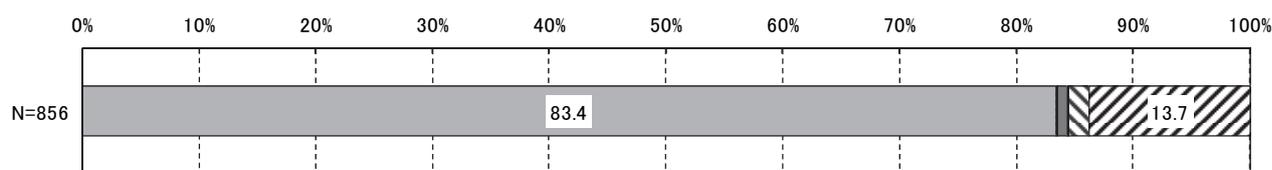
- フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない
- ▨ フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中である
- パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない
- パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中である (1.3)
- ▨ 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない (2.0)
- ▨ 無回答 (2.4)

■就学前児童（現在家庭類型でのクロス集計）

上段：人数（人）、下段：構成比（%）

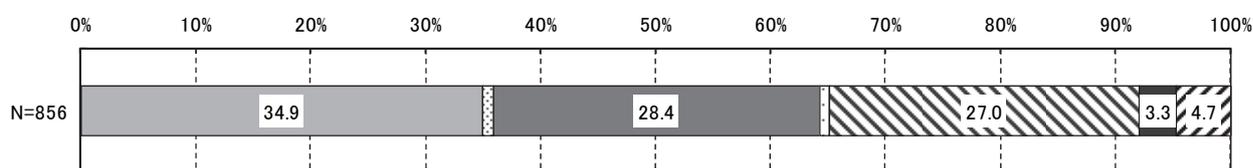
	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
合計	1,557 100.0	3 0.2	0 0.0	2 0.1	7 0.4	1,062 68.2	386 24.8	39 2.5	58 3.7
タイプA ひとり親	13 100.0	0 0.0	0 0.0	1 7.7	0 0.0	3 23.1	8 61.5	1 7.7	0 0.0
タイプB フル×フル	691 100.0	3 0.4	0 0.0	0 0.0	3 0.4	510 73.8	141 20.4	16 2.3	18 2.6
タイプC フル×パート	147 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	85 57.8	52 35.4	7 4.8	3 2.0
タイプC' フル×パート	51 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	33 64.7	16 31.4	0 0.0	2 3.9
タイプD 専業	650 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 0.3	431 66.3	167 25.7	15 2.3	35 5.4
タイプE パート×パート	5 100.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0
タイプE' パート×パート	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
タイプF 無×無	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

■小学校児童（父親：単数回答設問）



- フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない
- ▨ フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中である (0.1)
- パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない (0.9)
- パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中である (0.1)
- ▨ 以前は就労していたが、現在は就労していない (1.8)
- これまで就労したことがない (0.0)
- ▨ 無回答

■小学校児童（母親：単数回答設問）



- フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない
- ▨ フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中である (0.9)
- パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない
- パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中である (0.8)
- ▨ 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- ▨ 無回答

■小学校児童（現在家庭類型でのクロス集計）

上段：人数（人）、下段：構成比（%）

	合計	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
合計	694	4	1	1	1	472	179	21	15
	100.0	0.6	0.1	0.1	0.1	68.0	25.8	3.0	2.2
タイプA ひとり親	25	0	1	0	0	17	4	1	2
	100.0	0.0	4.0	0.0	0.0	68.0	16.0	4.0	8.0
タイプB フル×フル	231	2	0	0	1	149	65	5	9
	100.0	0.9	0.0	0.0	0.4	64.5	28.1	2.2	3.9
タイプC フル×パート	183	0	0	0	0	122	55	4	2
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	30.1	2.2	1.1
タイプC' フル×パート	36	2	0	0	0	21	11	0	2
	100.0	5.6	0.0	0.0	0.0	58.3	30.6	0.0	5.6
タイプD 専業	216	0	0	1	0	161	43	11	0
	100.0	0.0	0.0	0.5	0.0	74.5	19.9	5.1	0.0
タイプE パート×パート	3	0	0	0	0	2	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
タイプE' パート×パート	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
タイプF 無×無	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 父親の就労状況

ア フルタイム・パートタイム勤務の状況（育休・介護休業者の休業前の状況を含む）

就労日数は就学前児童・小学校児童ともに、「5日」が最も多くなっている。就労時間は就学前児童では「12時間以上」、小学校児童では「10時間」が最も多くなっている。

■就学前児童（単数回答設問）

1週当たりの「就労日数」	人数(人)	割合(%)
1日	4	0.3
2日	0	0.0
3日	2	0.1
4日	7	0.4
5日	1079	68.0
6日	391	24.6
7日	43	2.7
無回答	61	3.8
全体	1,587	100

1日当たりの「就労時間」	人数(人)	割合(%)
～2時間未満	1	0.1
2～4時間未満	0	0.0
4～6時間未満	2	0.1
6～8時間未満	15	0.9
8時間	232	14.6
9時間	163	10.3
10時間	370	23.3
11時間	142	8.9
12時間以上	579	36.5
無回答	83	5.2
全体	1,587	100

■小学校児童（単数回答設問）

1週当たりの「就労日数」	人数(人)	割合(%)
1日	4	0.6
2日	1	0.1
3日	1	0.1
4日	1	0.1
5日	475	65.6
6日	180	24.9
7日	21	2.9
無回答	41	5.7
全体	724	100

1日当たりの「就労時間」	人数(人)	割合(%)
～2時間未満	0	0.0
2～4時間未満	1	0.1
4～6時間未満	0	0.0
6～8時間未満	18	2.5
8時間	124	17.1
9時間	104	14.4
10時間	186	25.7
11時間	59	8.1
12時間以上	175	24.2
無回答	57	7.9
全体	724	100

(3) 母親の就労状況

ア フルタイム・パートタイム勤務の状況（産休・育休・介護休業者の休業前の状況を含む）

就学前児童・小学校児童ともに、就労日数「5日」、就労時間「8時間」が最も多い。

■就学前児童（単数回答設問）

1週当たりの「就労日数」	人数(人)	割合(%)
1日	13	1.4
2日	14	1.5
3日	37	4.0
4日	46	5.0
5日	705	75.9
6日	60	6.5
7日	6	0.6
無回答	48	5.2
全体	929	100

1日当たりの「就労時間」	人数(人)	割合(%)
～2時間未満	3	0.3
2～4時間未満	33	3.6
4～6時間未満	57	6.1
6～8時間未満	242	26.0
8時間	330	35.5
9時間	112	12.1
10時間	61	6.6
11時間	17	1.8
12時間以上	24	2.6
無回答	50	5.4
全体	929	100

■小学校児童（単数回答設問）

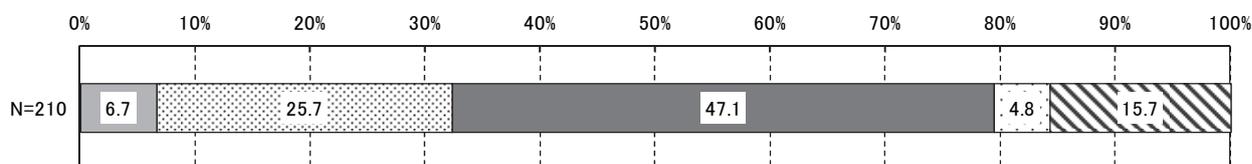
1週当たりの「就労日数」	人数(人)	割合(%)
1日	10	1.8
2日	28	5.0
3日	57	10.2
4日	63	11.3
5日	318	57.1
6日	51	9.2
7日	3	0.5
無回答	27	4.8
全体	557	100

1日当たりの「就労時間」	人数(人)	割合(%)
～2時間未満	1	0.2
2～4時間未満	32	5.7
4～6時間未満	102	18.3
6～8時間未満	115	20.6
8時間	162	29.1
9時間	58	10.4
10時間	30	5.4
11時間	5	0.9
12時間以上	21	3.8
無回答	31	5.6
全体	557	100

イ パート・アルバイト就労のフルタイムへの転換希望

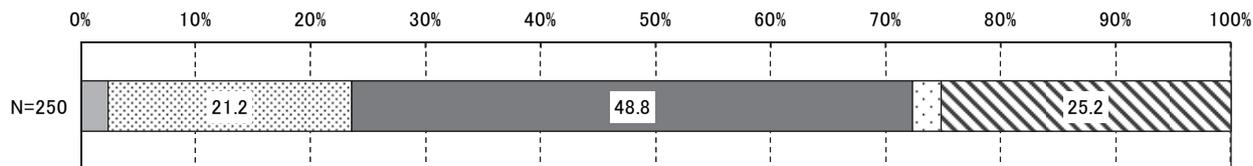
パート・アルバイトの就労をしている母親の「フルタイムへの転換希望があり、具体的な就職活動を行っている、または職が決まっている」については、就学前児童では6.7%、小学校児童では2.4%である。

■就学前児童（単数回答設問）



- フルタイムへの転換希望があり、具体的な就職活動を行っている、または職が決まっている
- ▨ フルタイムへの転換希望はあるが、今のところ具体的な就職活動は行っていない
- パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
- パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい
- 無回答

■ 小学校児童（単数回答設問）



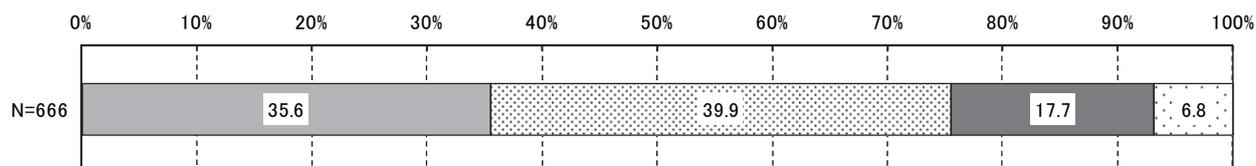
- フルタイムへの転換希望があり、具体的な就職活動を行っている、または職が決まっている (2.4)
- ▨ フルタイムへの転換希望はあるが、今のところ具体的な就職活動は行っていない
- パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
- パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい (2.4)
- 無回答

ウ 現在非就労の今後の就労希望

現在、就労していない母親の就労希望は、就学前児童で 57.6%、小学校児童で 48.3%となっており、希望する就労形態は、いずれも「パートタイム、アルバイト等」が多くなっている。

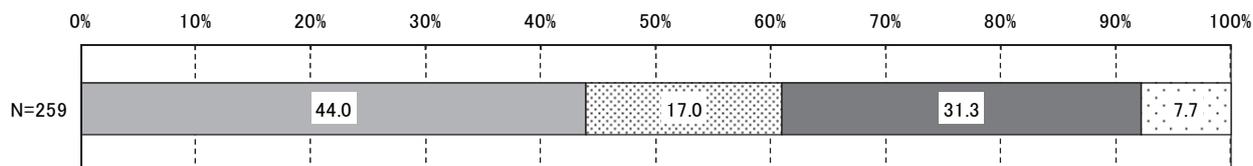
① 今後の就労希望

■ 就学前児童（単数回答設問）



- 子育てや家事などに専念したい(今のところ就労の予定はない)
- ▨ 1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい
- すぐにも、もしくは1年以内に就労したい
- 無回答

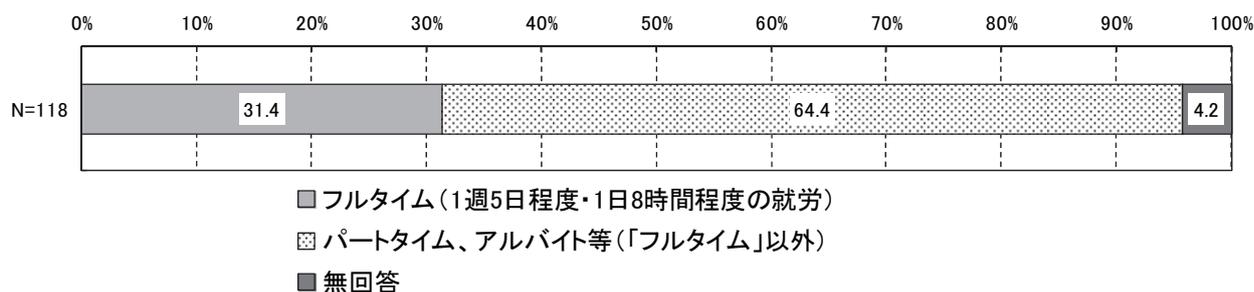
■ 小学校児童（単数回答設問）



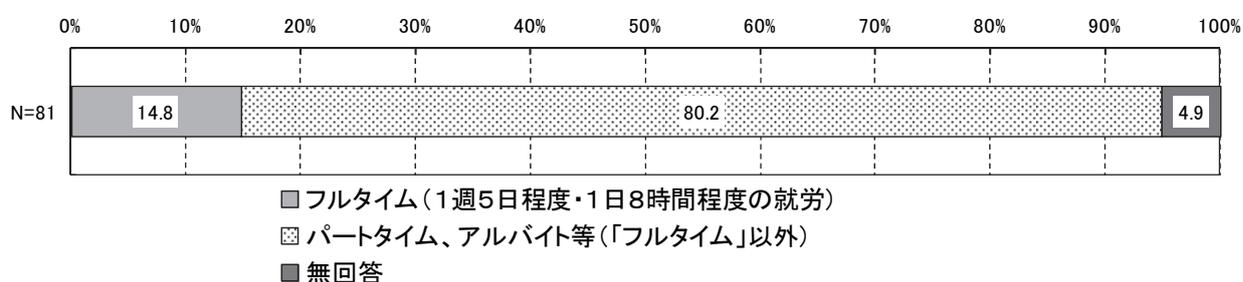
- 子育てや家事などに専念したい(今のところ就労の予定はない)
- ▨ 1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい
- すぐにも、もしくは1年以内に就労したい
- 無回答

②希望する就労形態（すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい方の希望）

■就学前児童（単数回答設問）



■小学校児童（単数回答設問）



4. 平日の定期的な教育及び保育の施設・事業の利用状況について（就学前児童）

(1) 年齢別の定期的な教育・保育の事業の利用有無

平日の定期的な教育及び保育の施設・事業を利用している方は、就学前児童全体の73.1%であり、年齢別で見ると0歳児は30.6%、1～2歳児は50%以上、3～5歳児は98%以上となっている。

子どもの年齢でのクロス集計

上段：人数（人）、下段：構成比（%）

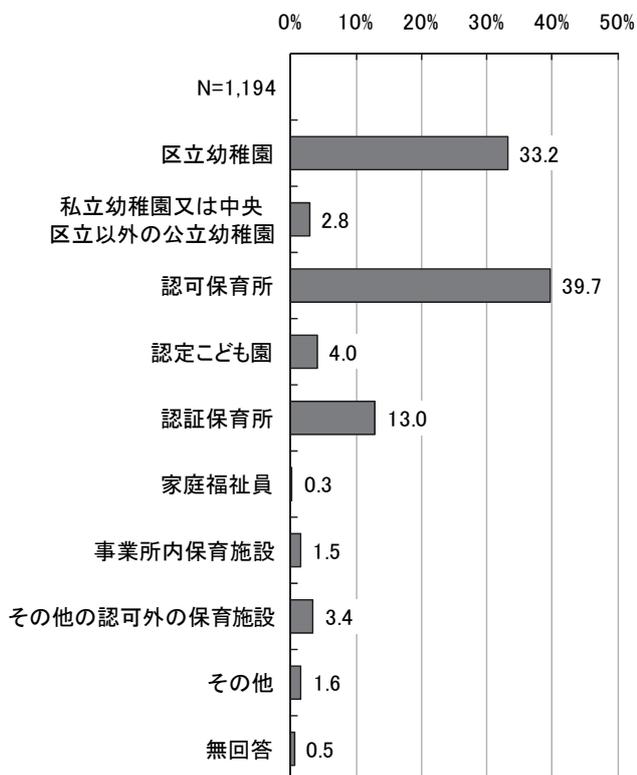
	合計	利用している	利用していない	無回答
合計	1,625 100.0	1,188 73.1	426 26.2	11 0.7
0歳	291 100.0	89 30.6	197 67.7	5 1.7
1歳	282 100.0	150 53.2	131 46.5	1 0.4
2歳	272 100.0	178 65.4	92 33.8	2 0.7
3歳	261 100.0	257 98.5	4 1.5	0 0.0
4歳	251 100.0	250 99.6	0 0.0	1 0.4
5歳	268 100.0	264 98.5	2 0.7	2 0.7

(2) 定期的な教育・保育の事業の利用状況と今後の利用希望

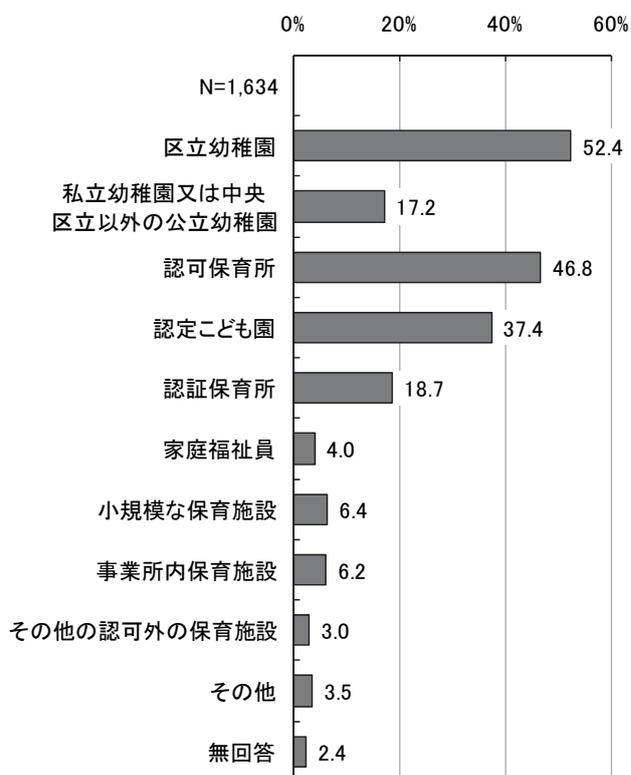
ア 利用している事業の種類と今後の希望

利用している事業は、「認可保育所」39.7%、「区立幼稚園」33.2%、「認証保育所」13.0%の順に多い。
 今後の利用希望は、「区立幼稚園」52.4%、「認可保育所」46.8%、「認定こども園」37.4%の順に多い。

■現在の利用事業（複数回答設問）



■今後の利用希望（複数回答設問）



イ 現在家庭類型別の定期的な教育・保育の事業の利用事業

現在家庭類型別でみると、タイプ A・B・C では「認可保育所」が多く、タイプ C'・D では「区立幼稚園」が多くなっている。

現在家庭類型でのクロス集計

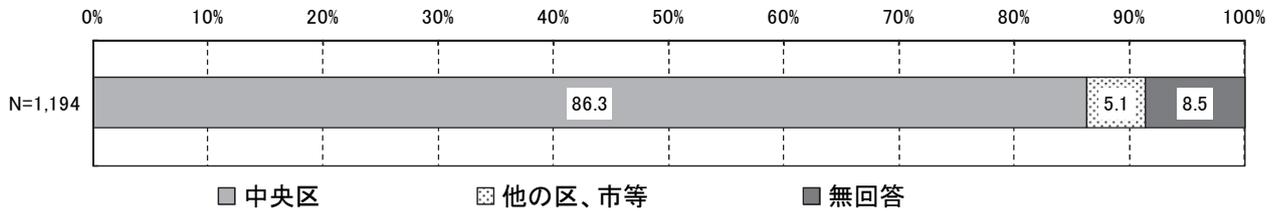
上段：人数（人）、下段：構成比（％）

	合計	区立幼稚園 (通常の教育時間の利用)	私立幼稚園 又は中央区 立以外の公 立幼稚園 (通常の教育時間の利用)	認可保育所	認定こども園	認証保育所	家庭福祉員 (保育ママ)	事業所内保 育施設	その他の認 可外の保育 施設(ベビ ーホテル、ス ポーツ・語学 に特化した 幼稚園など)
合計	1,163 100.0	388 33.4	34 2.9	458 39.4	47 4.0	152 13.1	2 0.2	18 1.5	40 3.4
タイプA ひとり親	37 100.0	7 18.9	0 0.0	19 51.4	2 5.4	5 13.5	1 2.7	1 2.7	0 0.0
タイプB フル×フル	591 100.0	42 7.1	6 1.0	359 60.7	32 5.4	113 19.1	1 0.2	15 2.5	12 2.0
タイプC フル×パート	128 100.0	19 14.8	2 1.6	68 53.1	5 3.9	28 21.9	0 0.0	0 0.0	4 3.1
タイプC' フル×パート	33 100.0	27 81.8	3 9.1	0 0.0	1 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 6.1
タイプD 専業	369 100.0	290 78.6	23 6.2	10 2.7	7 1.9	6 1.6	0 0.0	2 0.5	22 6.0
タイプE パート×パート	5 100.0	3 60.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
タイプE' パート×パート	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
タイプF 無×無	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	合計	その他	無回答						
合計	1,163 100.0	19 1.6	5 0.4						
タイプA ひとり親	37 100.0	2 5.4	0 0.0						
タイプB フル×フル	591 100.0	6 1.0	5 0.8						
タイプC フル×パート	128 100.0	2 1.6	0 0.0						
タイプC' フル×パート	33 100.0	0 0.0	0 0.0						
タイプD 専業	369 100.0	9 2.4	0 0.0						
タイプE パート×パート	5 100.0	0 0.0	0 0.0						
タイプE' パート×パート	0 0.0	0 0.0	0 0.0						
タイプF 無×無	0 0.0	0 0.0	0 0.0						

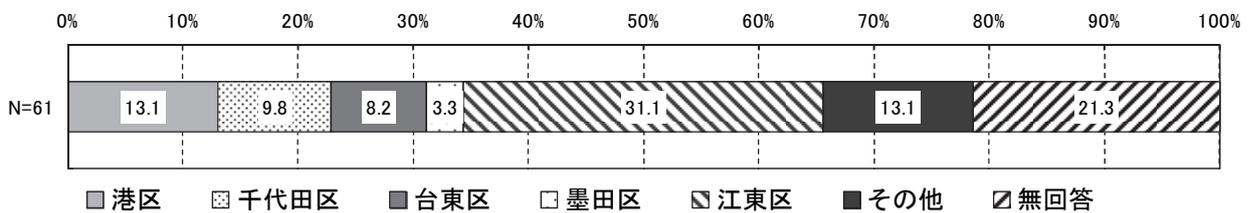
ウ 事業の実施場所と今後の希望

「現在の実施場所については、「中央区」が 86.3%となっている。また、区外の場合の場所は、「江東区」が最も多く 31.1%、次いで「港区」が 13.1%となっている。

■現在の実施場所（単数回答設問）



■区外の場合の場所（単数回答設問）

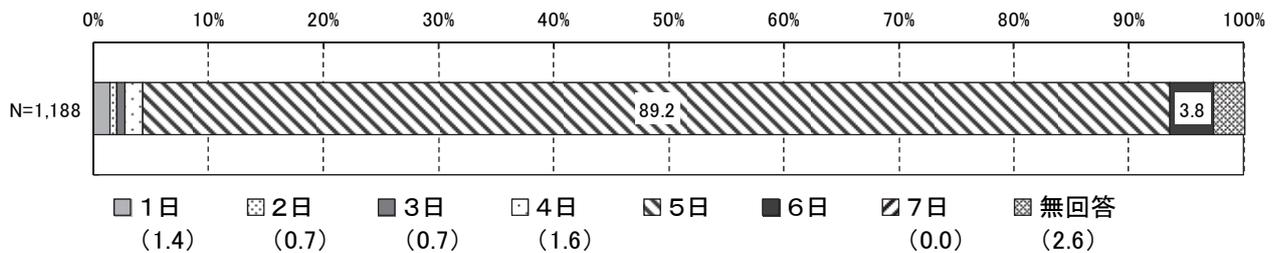


(3) 定期的な教育・保育の事業の利用日数・利用時間

ア 施設・事業の利用日数

「5日」が 89.2%となっている。

■施設・事業の利用日数（単数回答設問）



イ 事業別の利用時間数

「区立幼稚園」では「4～6時間未満」、「認可保育所」・「認定こども園」・「認証保育所」は「9時間」・「10時間」が多くなっている。

■事業別の利用時間数（複数回答設問）

上段：人数（人）、下段：構成比（%）

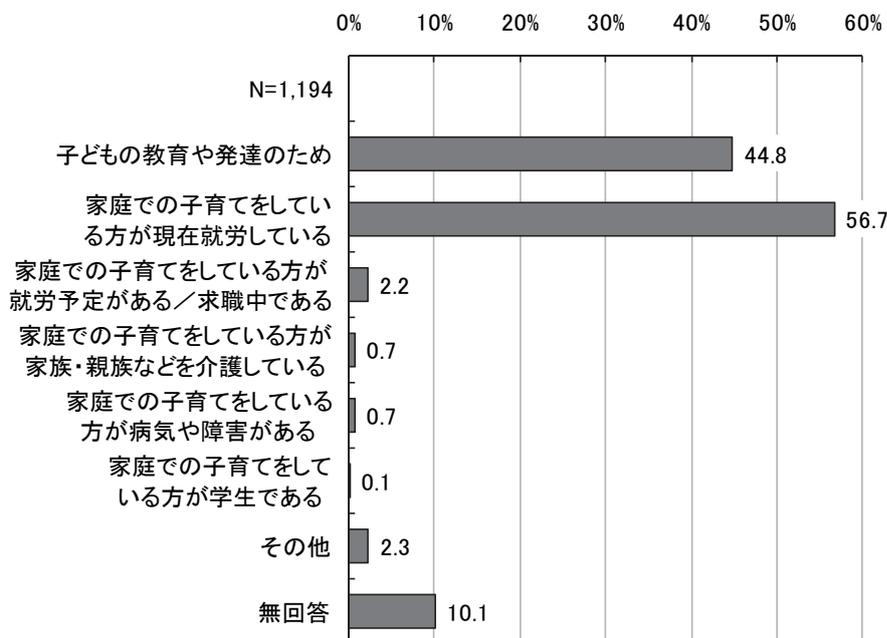
	合計	～2時間未 満	2～4時間未 満	4～6時間未 満	6～8時間未 満	8時間	9時間	10時間
合計	1,188 100.0	2 0.2	5 0.4	391 32.9	79 6.6	154 13.0	223 18.8	204 17.2
区立幼稚園	396 100.0	0 0.0	1 0.3	340 85.9	13 3.3	4 1.0	6 1.5	6 1.5
私立幼稚園又は中央区 立以外の公立幼稚園	34 100.0	0 0.0	2 5.9	19 55.9	4 11.8	4 11.8	3 8.8	0 0.0
認可保育所	474 100.0	0 0.0	0 0.0	1 0.2	34 7.2	100 21.1	147 31.0	146 30.8
認定こども園	48 100.0	1 2.1	0 0.0	8 16.7	4 8.3	4 8.3	14 29.2	10 20.8
認証保育所	155 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 5.2	29 18.7	37 23.9	39 25.2
家庭福祉員	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0
事業所内保育施設	18 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 22.2	2 11.1	8 44.4	1 5.6
その他の認可外の保育 施設	41 100.0	0 0.0	2 4.9	13 31.7	7 17.1	9 22.0	4 9.8	2 4.9
その他	19 100.0	1 5.3	0 0.0	10 52.6	4 21.1	0 0.0	4 21.1	0 0.0
	合計	11時間	12時間以上	無回答				
合計	1,188 100.0	78 6.6	17 1.4	35 2.9				
区立幼稚園	396 100.0	4 1.0	1 0.3	21 5.3				
私立幼稚園又は中央区 立以外の公立幼稚園	34 100.0	0 0.0	0 0.0	2 5.9				
認可保育所	474 100.0	30 6.3	8 1.7	8 1.7				
認定こども園	48 100.0	4 8.3	2 4.2	1 2.1				
認証保育所	155 100.0	36 23.2	5 3.2	1 0.6				
家庭福祉員	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
事業所内保育施設	18 100.0	2 11.1	0 0.0	1 5.6				
その他の認可外の保育 施設	41 100.0	2 4.9	1 2.4	1 2.4				
その他	19 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				

(4) 定期的な教育・保育の事業を利用している理由

ア 利用している理由

「家庭での子育てをしている方が現在就労している」が最も多く 56.7%、次いで「子どもの教育や発達のため」が 44.8%となっている。

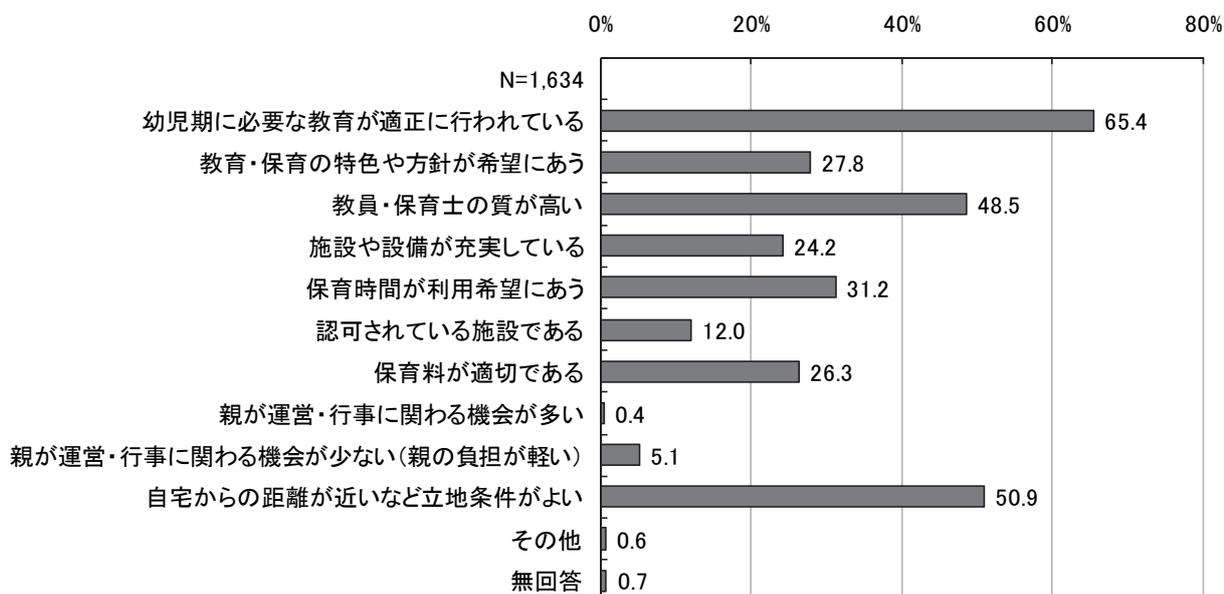
■利用している理由（複数回答設問）



イ 施設・事業を選ぶ上で重視する条件

「幼児期に必要な教育が適正に行われている」が最も多く 65.4%、次いで「自宅からの距離が近いなど立地条件がよい」が 50.9%、「教員・保育士の質が高い」が 48.5%となっている。

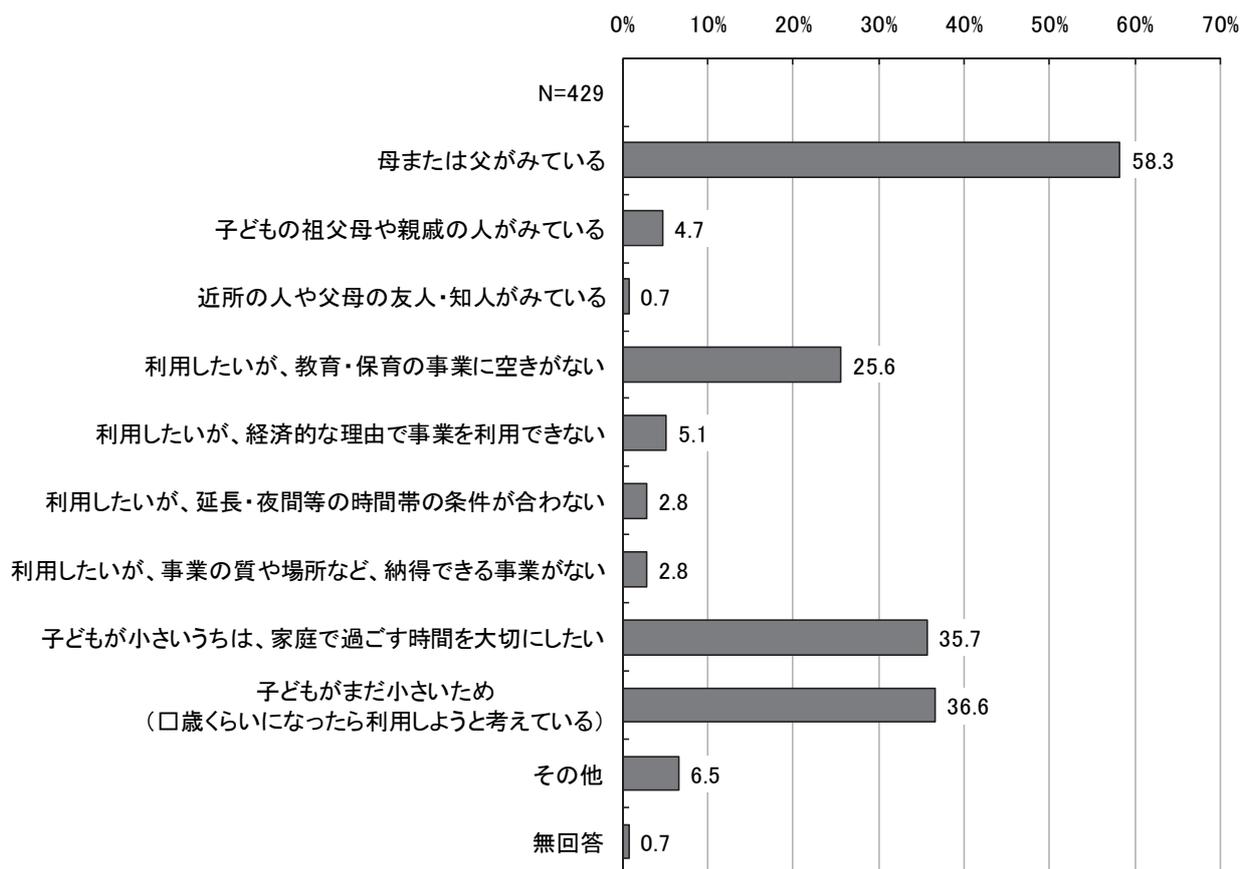
■施設・事業を選ぶ上で重視する条件（複数回答設問）



(5) 定期的な教育・保育の事業を利用していない理由

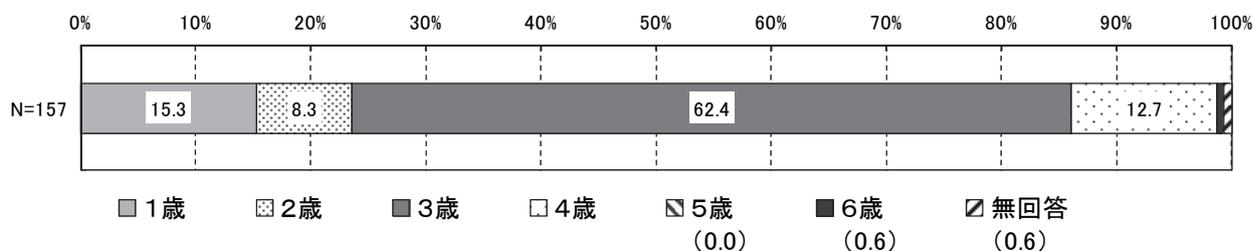
「母または父がみている」が最も多く 58.3%、次いで「子どもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）」が 36.6%、「子どもが小さいうちは、家庭で過ごす時間を大切にしたい」が 35.7%となっている。「利用したいが、教育・保育の事業に空きがない」が 25.6%となっており、4人に1人が利用したくてもできないという状況がある。

■利用していない理由（複数回答設問）



■子どもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）

「3歳」が最も多く 62.4%、次いで「1歳」が 15.3%となっている。



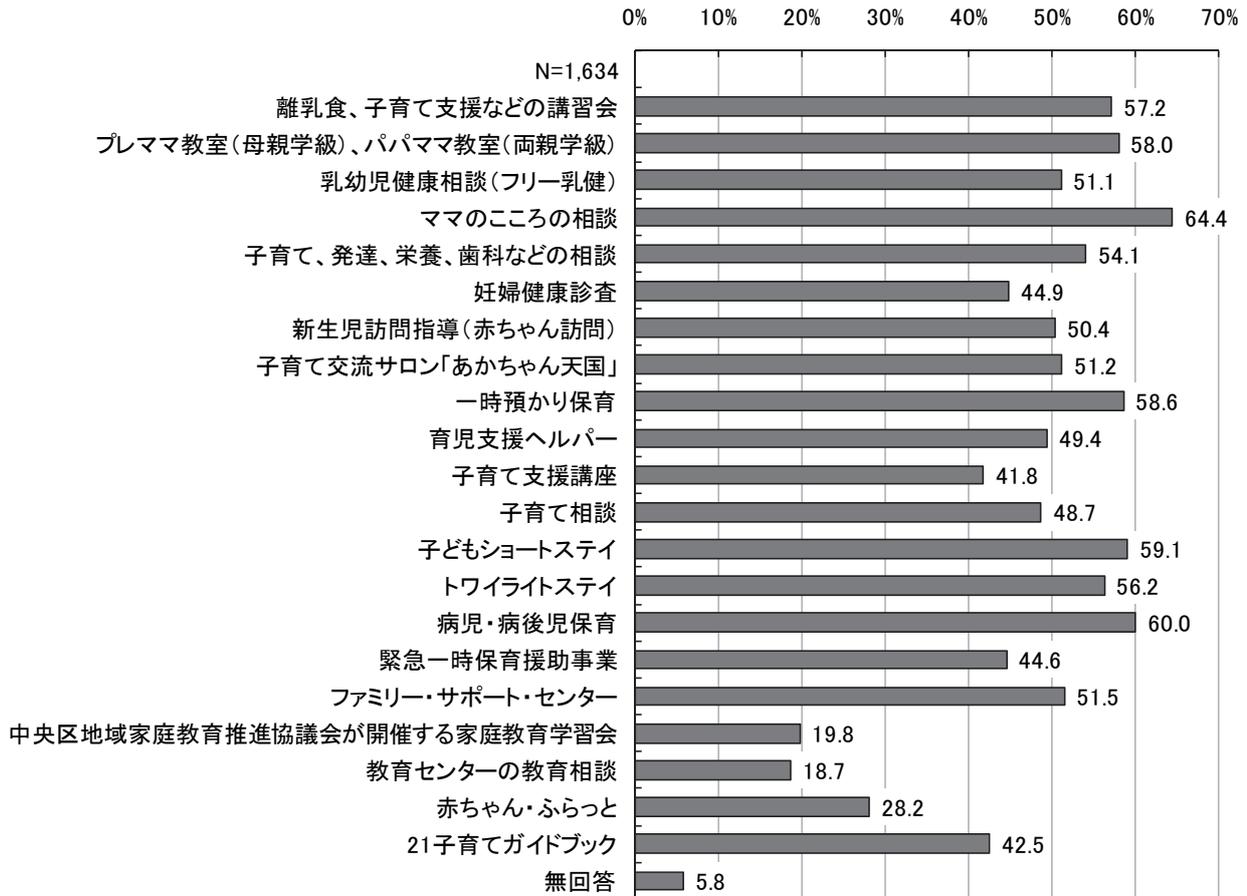
5. 地域の子育て支援事業の利用状況について（就学前児童）

（1）各事業の認知度、利用有無及び利用時の満足度、今後の利用意向

ア 知っている事業

「ママのこころの相談」が最も多く64.4%、次いで「病児・病後児保育」が60.0%、「子どもショートステイ」が59.1%となっており、概ね半数以上が知っている事業となっている。「中央区地域家庭教育推進協議会が開催する家庭教育学習会」・「教育センターの教育相談」は主に就学後児童を対象にしている事業であることから、回答の割合が低くなっていると推察される。

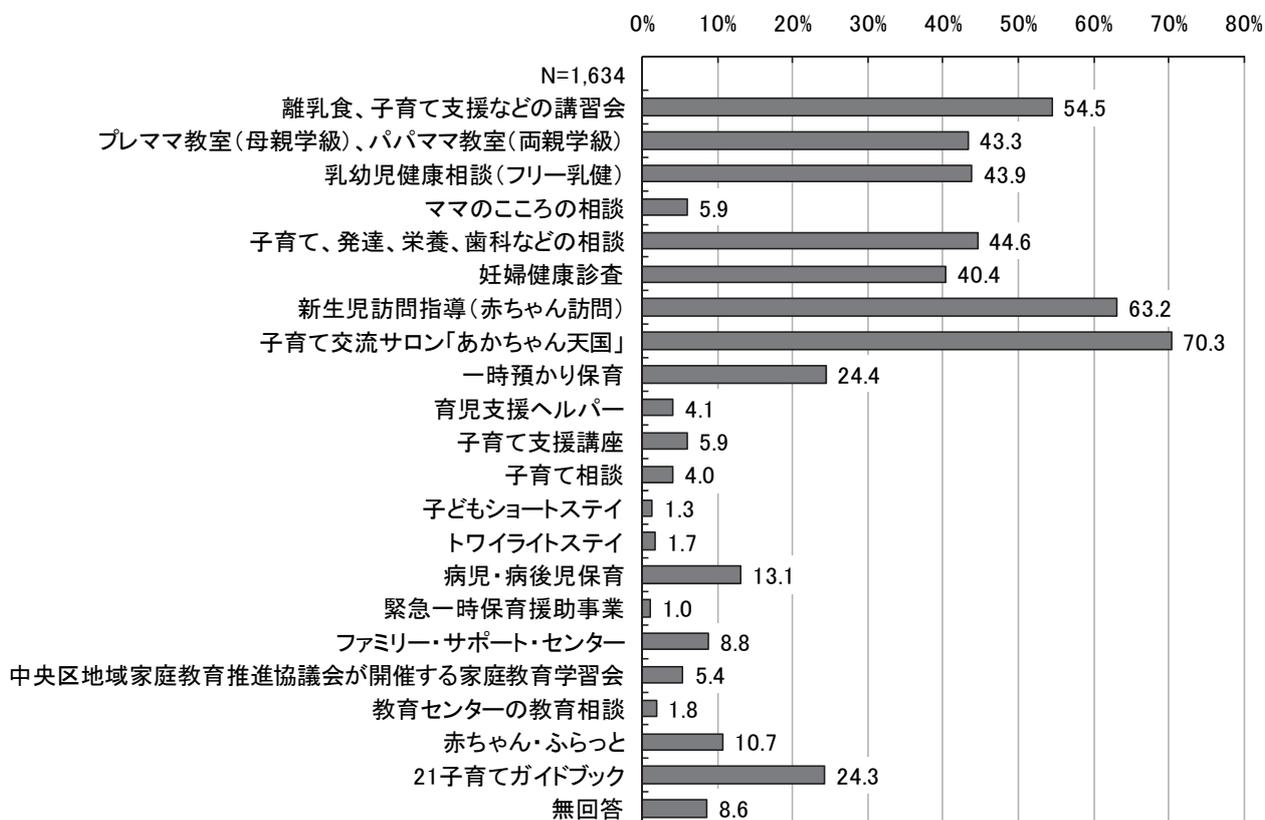
■知っている事業（複数回答設問）



イ 利用したことがある事業

「子育て交流サロン「あかちゃん天国」」が最も多く 70.3%、次いで「新生児訪問指導（赤ちゃん訪問）」が 63.2%、「離乳食、子育て支援などの講習会」が 54.5%となっている。「一時預かり保育」についても 24.4%と 4 人に 1 人が利用したことがあると回答している。

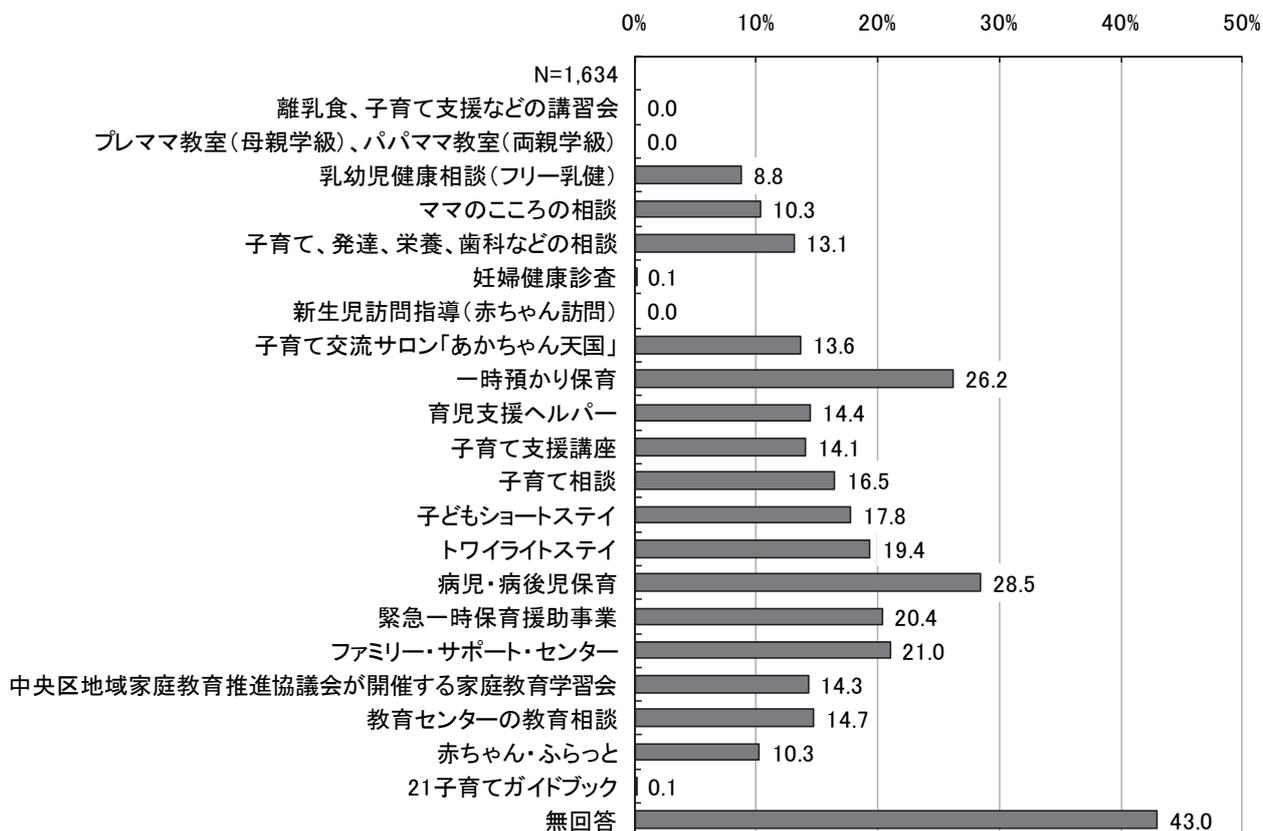
■利用したことがある事業（複数回答設問）



ウ 今後利用したい事業

「病児・病後児保育」が最も多く28.5%、次いで「一時預かり保育」が26.2%、「ファミリー・サポート・センター」が21.0%となっている。その他、「緊急一時保育援助事業」・「子どもショートステイ」・「トワイライトステイ」といったセーフティネットとしての事業への回答が比較的多い。

■今後利用したい事業（複数回答設問）



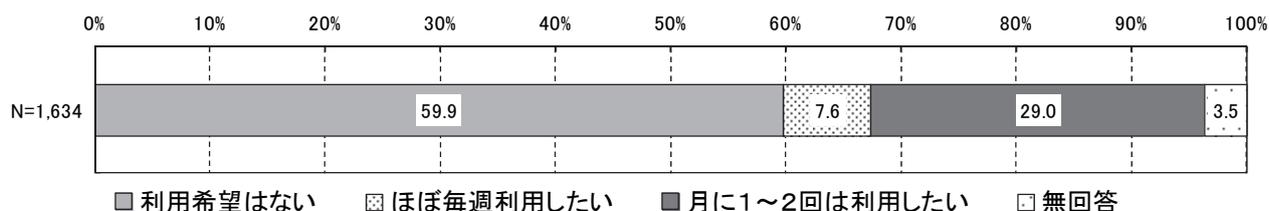
6. 土曜・休日などの「定期的」な教育及び保育の施設・事業の利用希望について（就学前児童）

(1) 土曜日の教育・保育の施設・事業の利用希望

ア 土曜日の教育・保育の施設・事業の利用希望

「利用希望はない」が59.9%となっており、「月に1～2回は利用したい」が29.0%となっている。

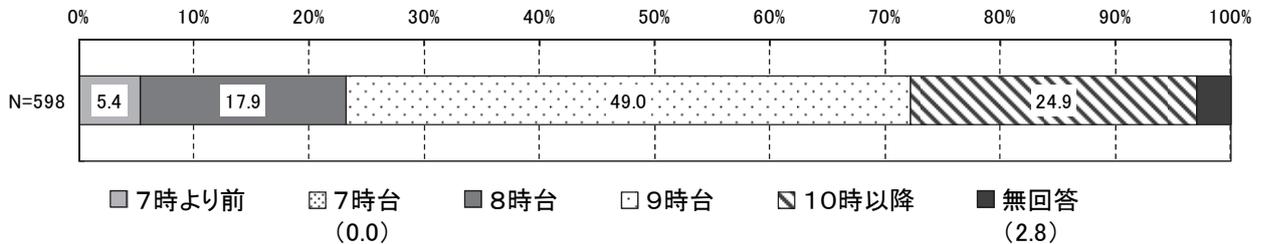
■土曜日の教育・保育の施設・事業の利用希望（単数回答設問）



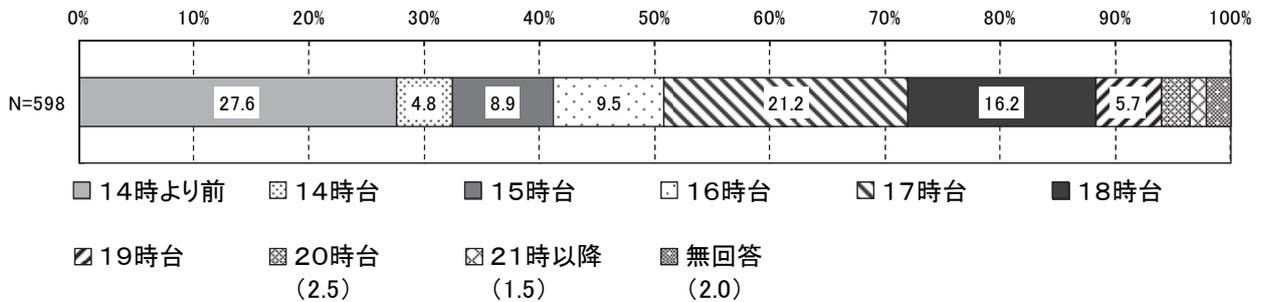
イ 利用したい時間帯

「利用したい時間帯」では、開始時刻は「9時台」が49.0%で最も多くなっている。終了時刻は「14時より前」が27.6%、次いで「17時台」が21.2%、「18時台」が16.2%となっている。平日と比べると、「14時より前」が多くなっている。

■開始時刻（単数回答設問）



■終了時刻（単数回答設問）

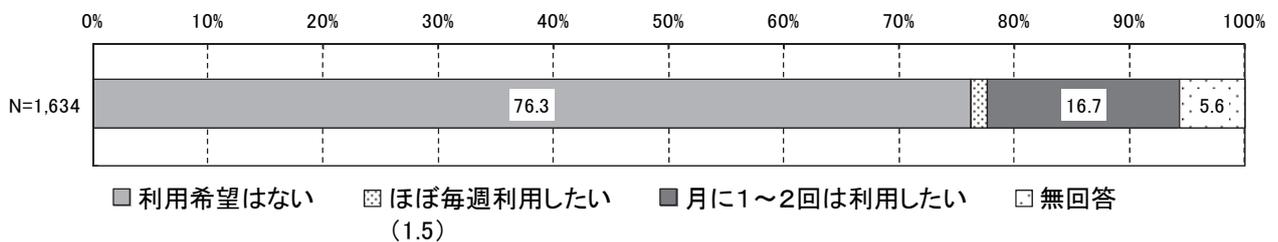


(2) 休日（日曜・祝日）の教育・保育の施設・事業の利用希望

ア 休日（日曜・祝日）の教育・保育の施設・事業の利用希望

「利用希望はない」が76.3%となっており、「月に1～2回は利用したい」が16.7%となっている。

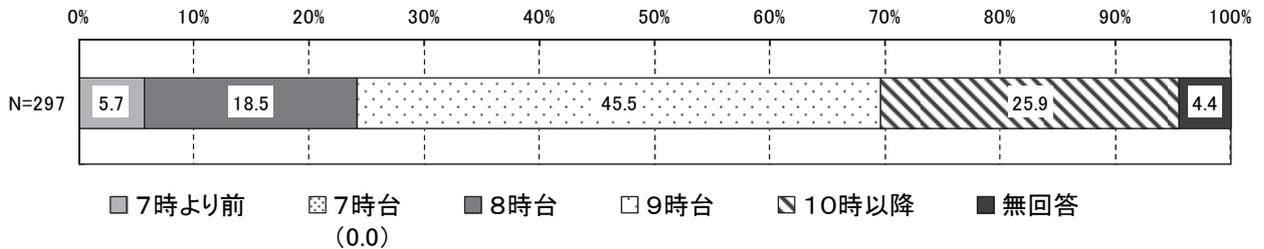
■休日（日曜・祝日）の教育・保育の施設・事業の利用希望（単数回答設問）



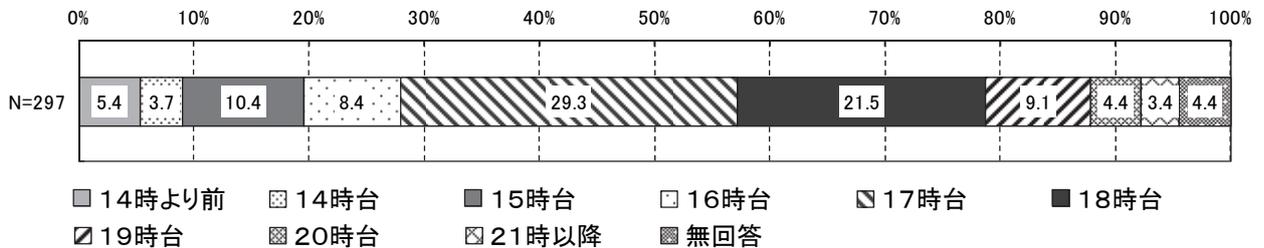
イ 利用したい時間帯

「利用したい時間帯」では、開始時刻は「9時台」が45.5%で最も多く、終了時刻は「17時台」が29.3%、次いで「18時台」が21.5%、「15時台」が10.4%となっている。平日と比べると、「17時台」・「18時台」までが多くなっている。

■ 開始時刻（単数回答設問）



■ 終了時刻（単数回答設問）

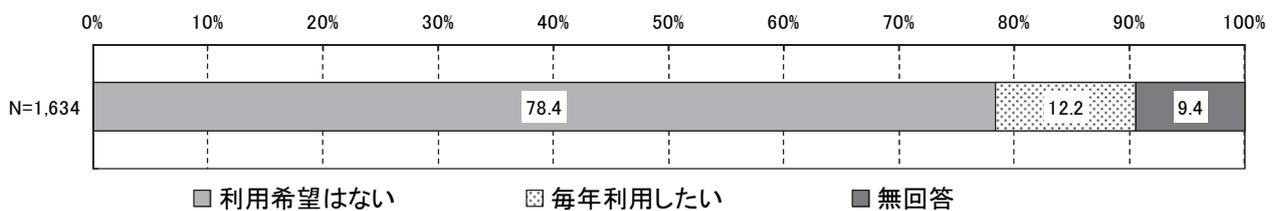


(3) 年末年始の定期的な教育・保育の施設・事業の利用希望

ア 年末年始の定期的な教育・保育の施設・事業の利用希望

「利用希望はない」が78.4%となっている。

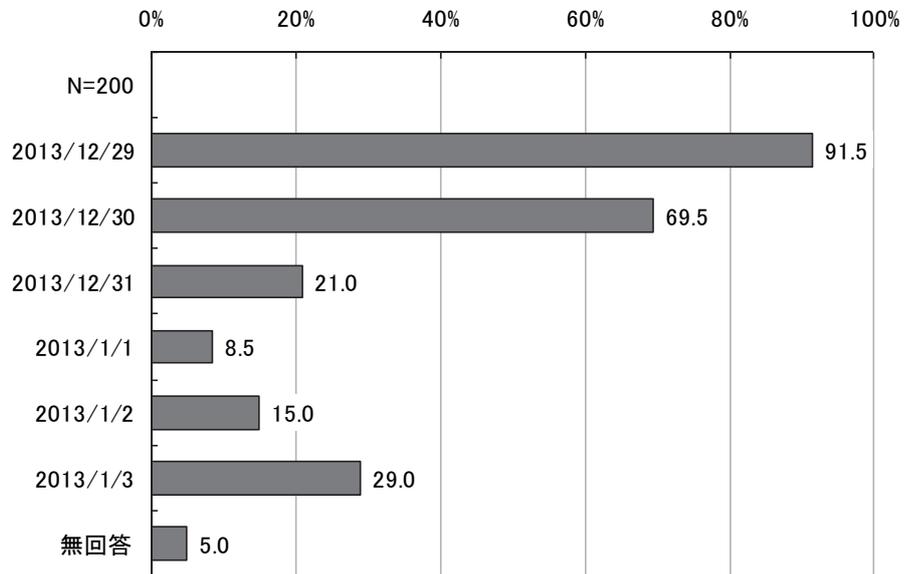
■ 年末年始の定期的な教育・保育の施設・事業の利用希望（単数回答設問）



イ 利用したい日にち

「12月29日」が最も多く91.5%、次いで「12月30日」で69.5%となっている。

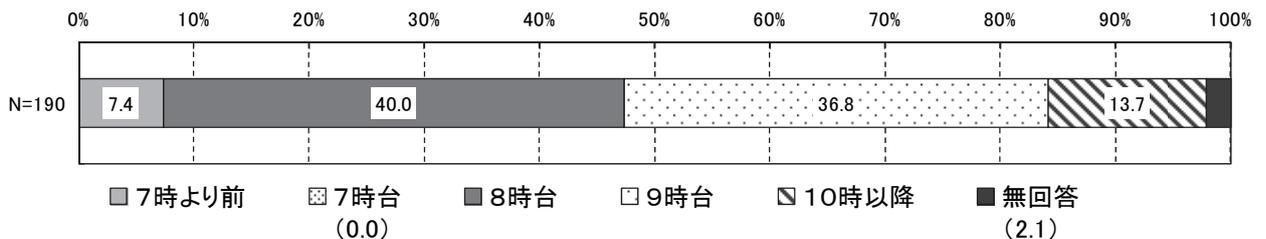
■ 利用したい日にち（複数回答設問）



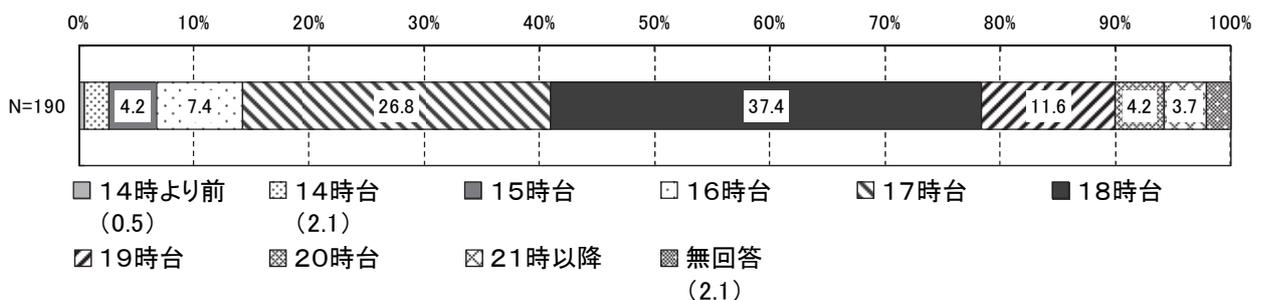
ウ 利用したい時間帯

「利用したい時間帯」では、開始時刻は「8時台」が40.0%、次いで「9時台」が36.8%となっており、終了時刻は「18時台」が37.4%、次いで「17時台」が26.8%、「19時台」が11.6%となっている。平日、休日（日曜・祝日）と比べると、開始時刻「8時台」の回答が多くなっている。

■ 開始時刻（単数回答設問）



■ 終了時刻（単数回答設問）

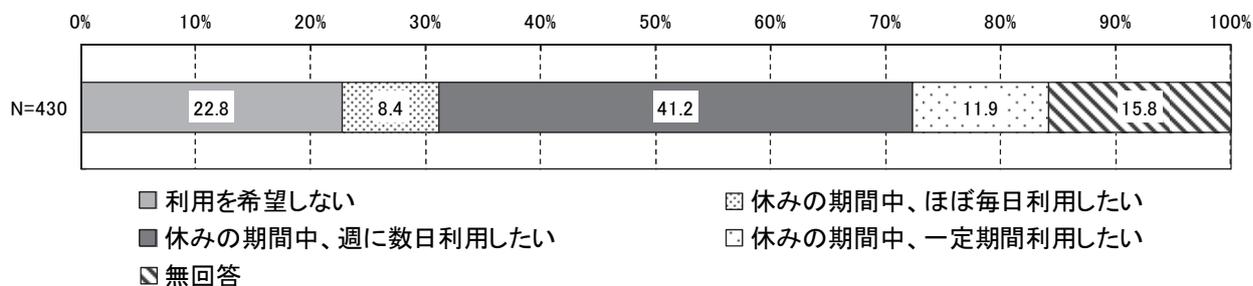


(4) 幼稚園利用者の夏休みなど長期休暇中の利用希望

ア 幼稚園利用者の夏休みなど長期休暇中の教育・保育の施設・事業の利用希望

「休みの期間中、週に数日利用したい」が最も多く 41.2%、次いで「利用を希望しない」が 22.8%となっている。

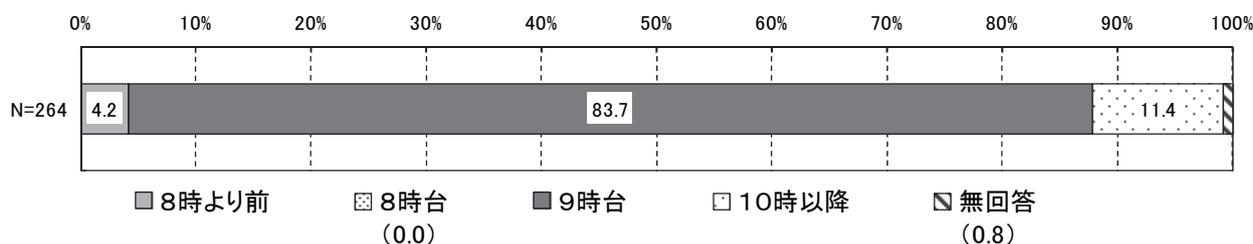
■幼稚園利用者の夏休みなど長期休暇中の教育・保育の施設・事業の利用希望（単数回答設問）



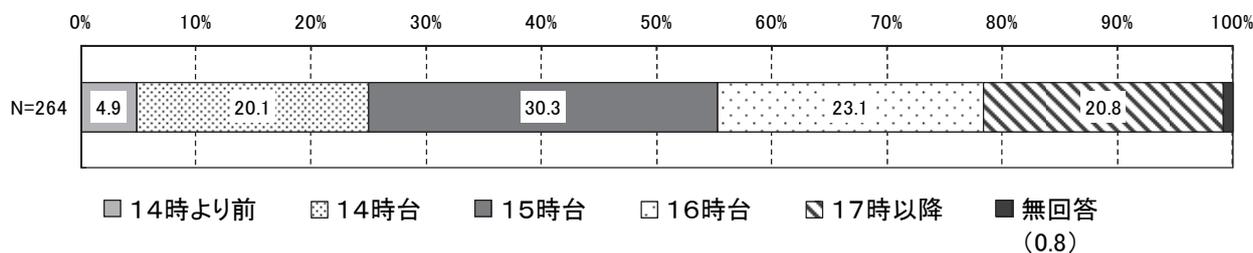
イ 利用したい時間帯

「利用したい時間帯」では、開始時刻は「9時台」が 83.7%で最も多く、終了時刻は「15時台」が 30.3%、次いで「16時台」が 23.1%、「17時以降」が 20.8%となっている。

■開始時刻（単数回答設問）



■終了時刻（単数回答設問）

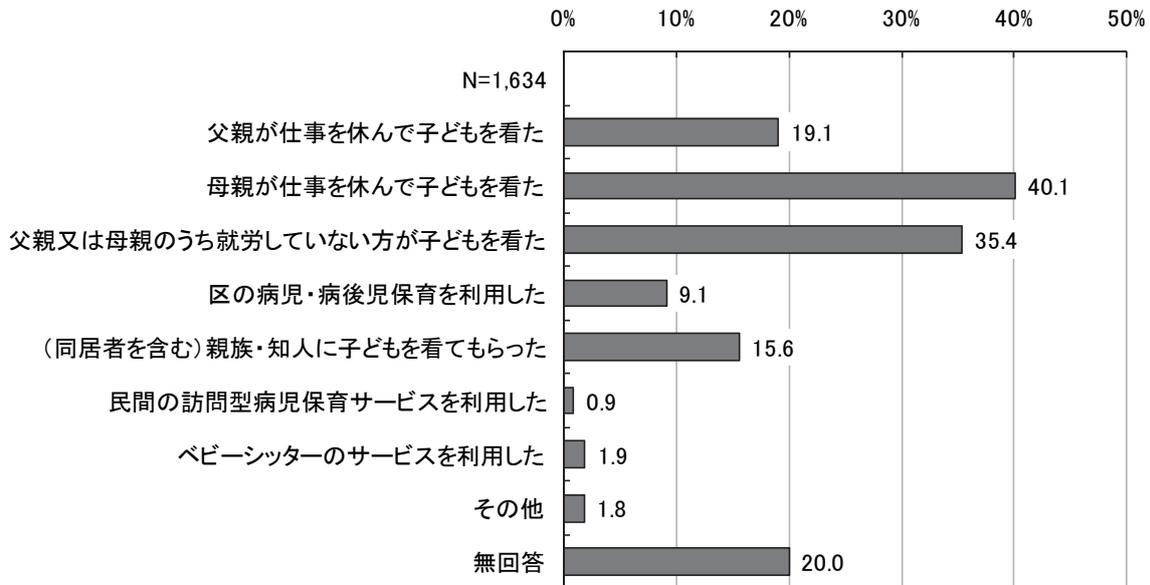


7. 病気やケガの際の対応について

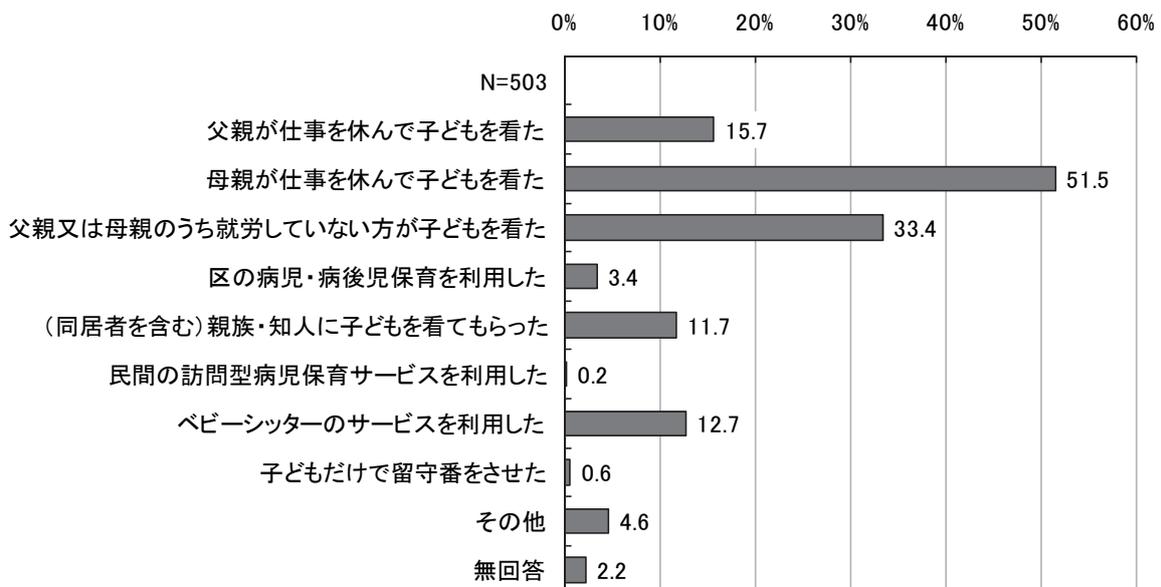
(1) 子どもが病気やケガをした際の対応

就学前児童・小学校児童ともに、「母親が仕事を休んで子どもを見た」が最も多く、次いで「父親又は母親のうち就労していない方が子どもを見た」、「父親が仕事を休んで子どもを見た」の順となっている。

■就学前児童（複数回答設問）



■小学校児童（複数回答設問）

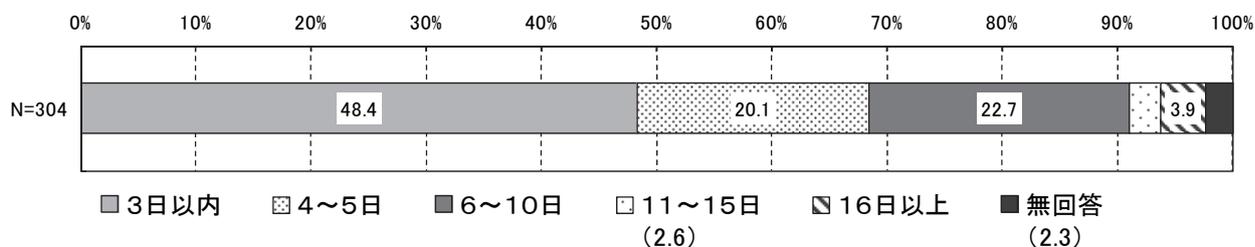


(2) 就労している保護者が子どもを見た人の病児・病後児保育の利用希望

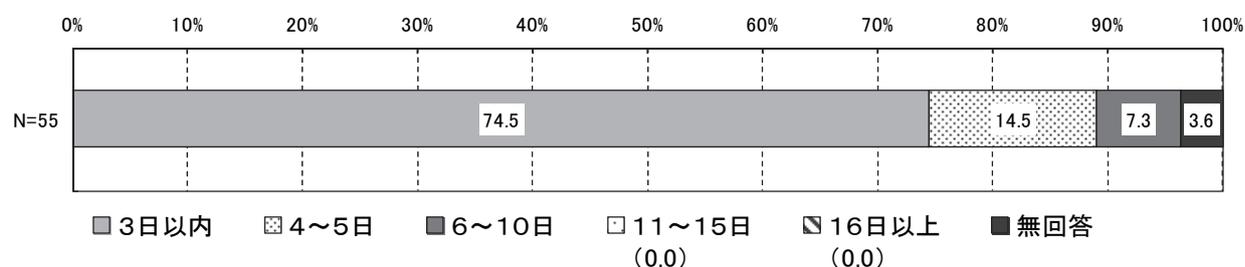
ア 病児・病後児保育を利用したい希望日数

就学前児童では、「3日以内」が最も多く48.4%、次いで「6～10日」が22.7%、「4～5日」が20.1%となっている。小学校児童では、「3日以内」が最も多く74.5%、次いで「4～5日」が14.5%となっている。就学前児童・小学校児童ともに、3日以内に集中している。

■就学前児童（単数回答設問）



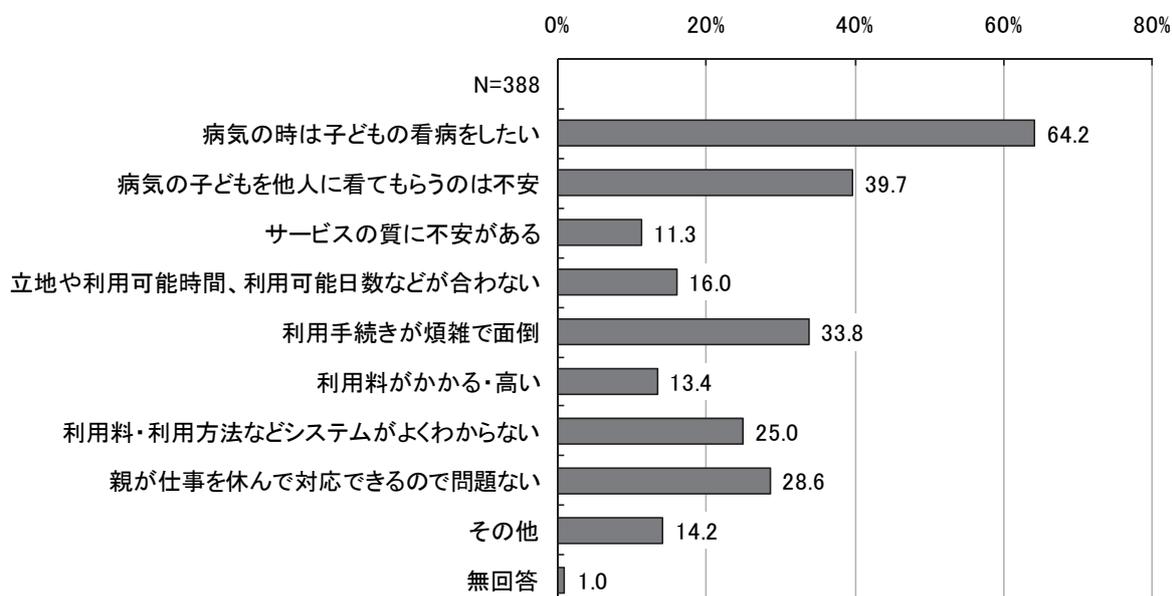
■小学校児童（単数回答設問）



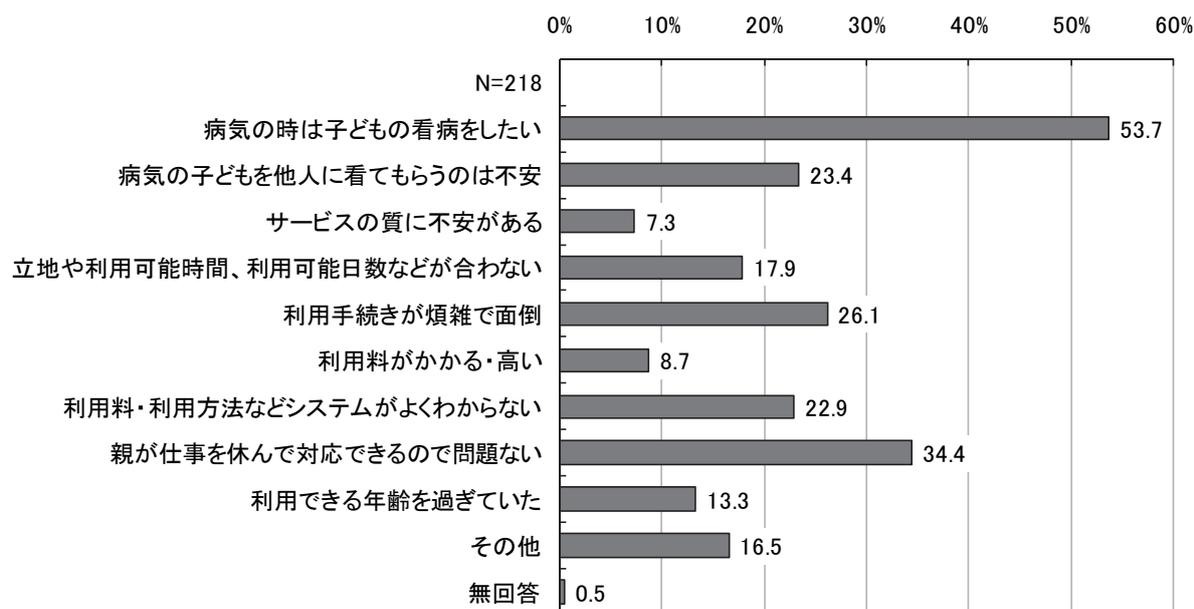
イ 病児・病後児保育の利用を希望しない理由

就学前児童では、「病気の時は子どもの看病をしたい」が最も多く64.2%、次いで「病気の子どもを他人に看てもらふのは不安」が39.7%となっている。小学校児童では、「病気の時は、子どもの看病をしたい」が最も多く53.7%、次いで「親が仕事を休んで対応できるので問題ない」が34.4%となっている。

■就学前児童（複数回答設問）



■小学校児童（複数回答設問）

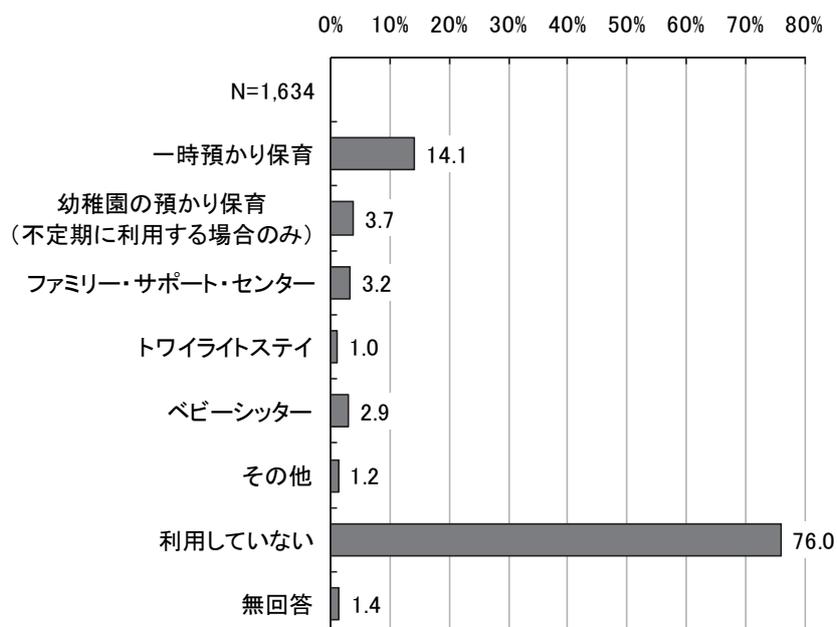


8. 不定期な教育及び保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用について

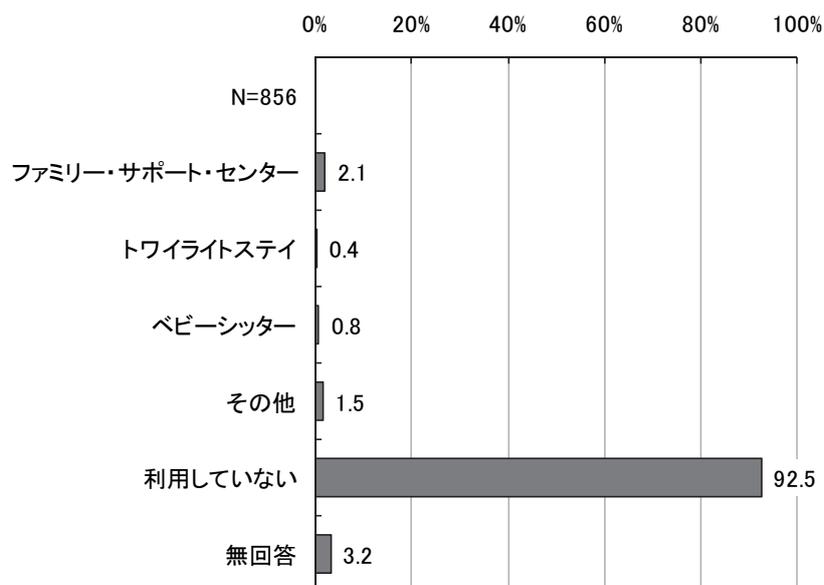
(1) 不定期な教育及び保育事業の利用状況

就学前児童では「利用していない」が最も多く 76.0%、次いで「一時預かり保育」が 14.1%となっている。小学校児童では「利用していない」が 92.5%となっている。

■就学前児童（複数回答設問）



■ 小学校児童（複数回答設問）

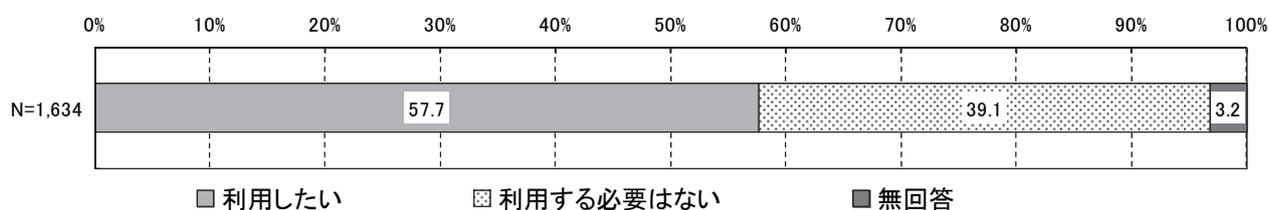


(2) 不定期的な教育及び保育事業の利用希望

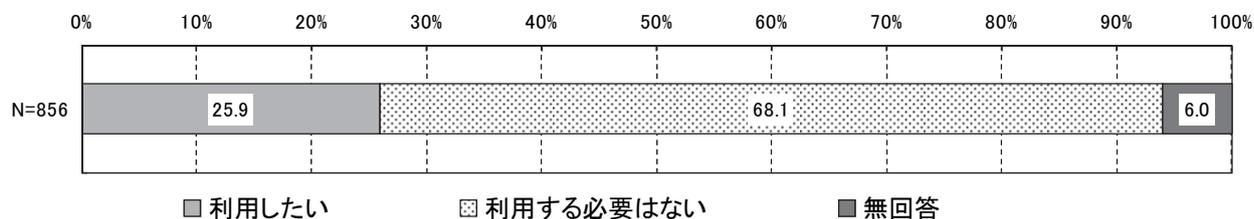
ア 利用希望の有無

就学前児童では、「利用したい」が 57.7%となっている。小学校児童では、「利用する必要はない」が 68.1%となっている。

■ 就学前児童（単数回答設問）



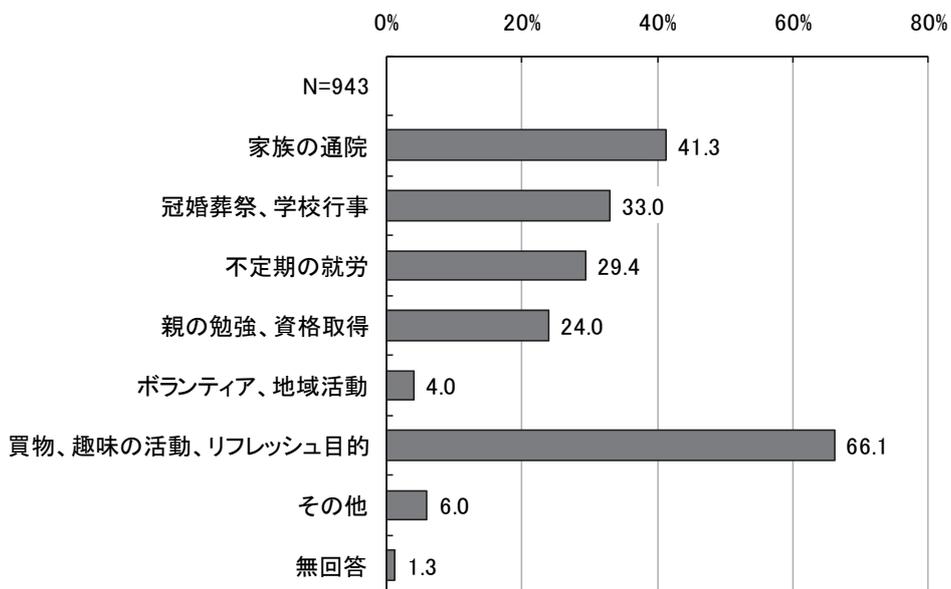
■ 小学校児童（単数回答設問）



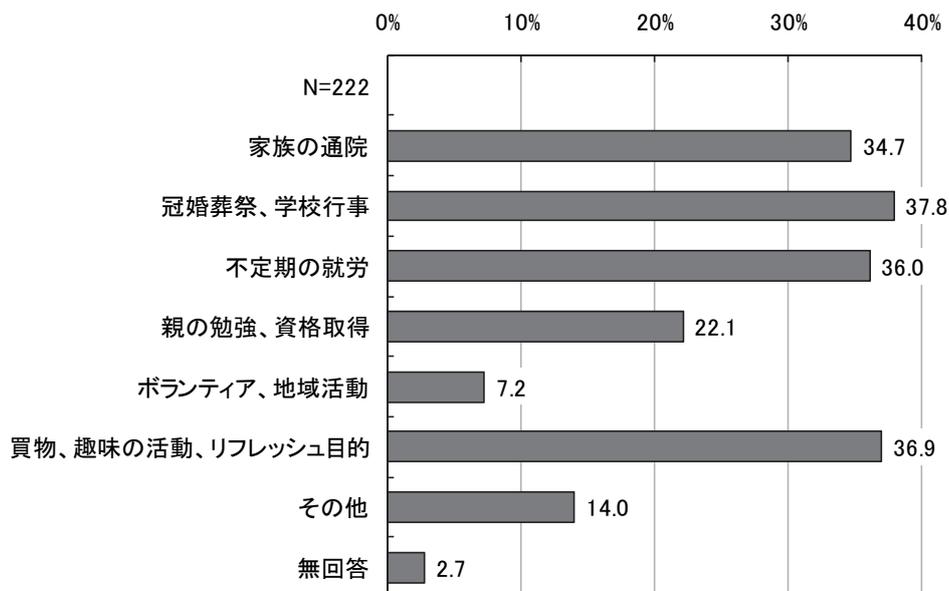
イ 利用目的

就学前児童では、「買物、趣味の活動、リフレッシュ目的」が最も多く 66.1%、次いで「家族の通院」が 41.3%となっている。小学校児童では、「冠婚葬祭、学校行事」が最も多く 37.8%、次いで「買物、趣味の活動、リフレッシュ目的」が 36.9%となっている。

■就学前児童（複数回答設問）



■小学校児童（複数回答設問）

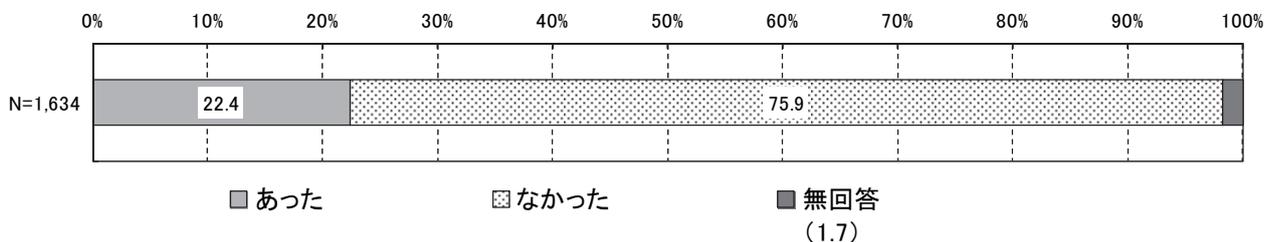


(3) 泊まりがけで預けなければならなかった場合の対処方法

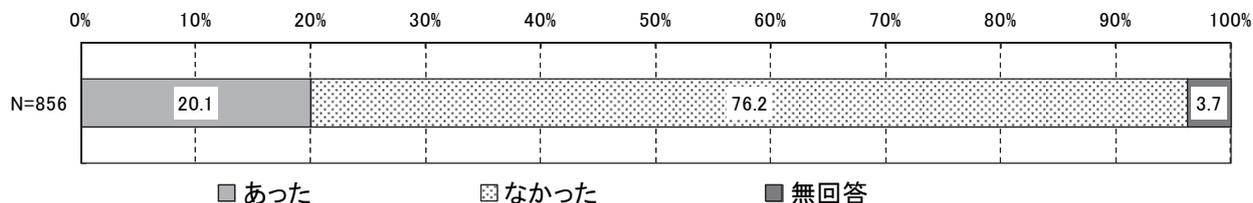
ア 宿泊を伴う預かりの有無

就学前児童・小学校児童ともに、「なかった」が7割半ばとなっている。

■就学前児童（単数回答設問）



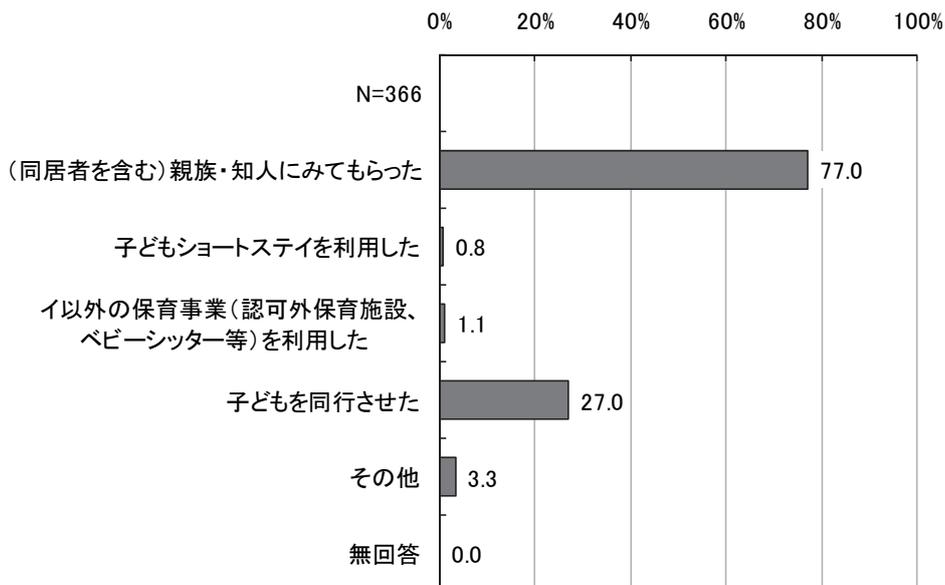
■小学校児童（単数回答設問）



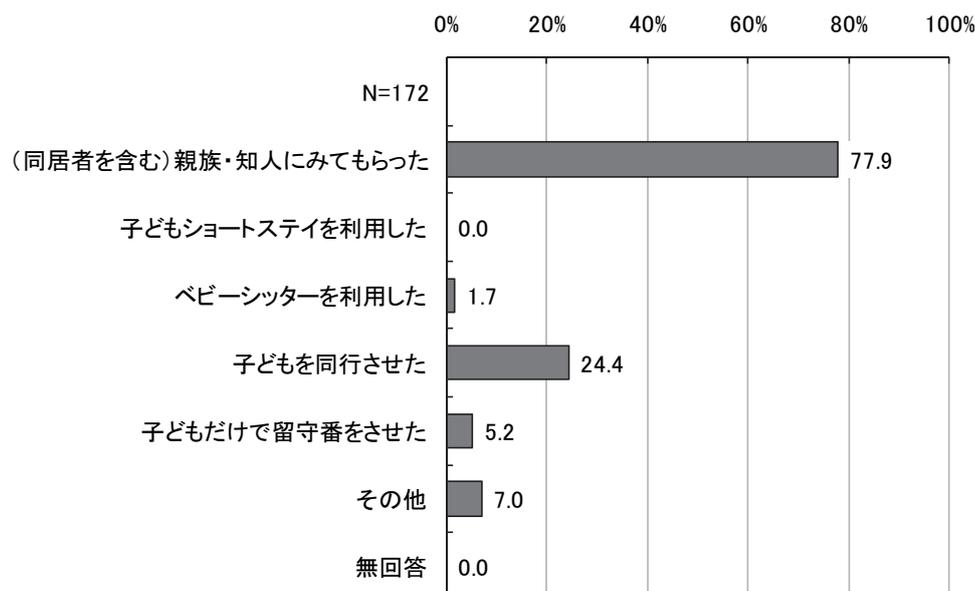
イ 1年間の対処方法

就学前児童・小学校児童ともに、「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」が最も多く7割半ば、次いで「子どもを同行させた」が2割半ばとなっている。

■就学前児童（複数回答設問）



■小学校児童（複数回答設問）



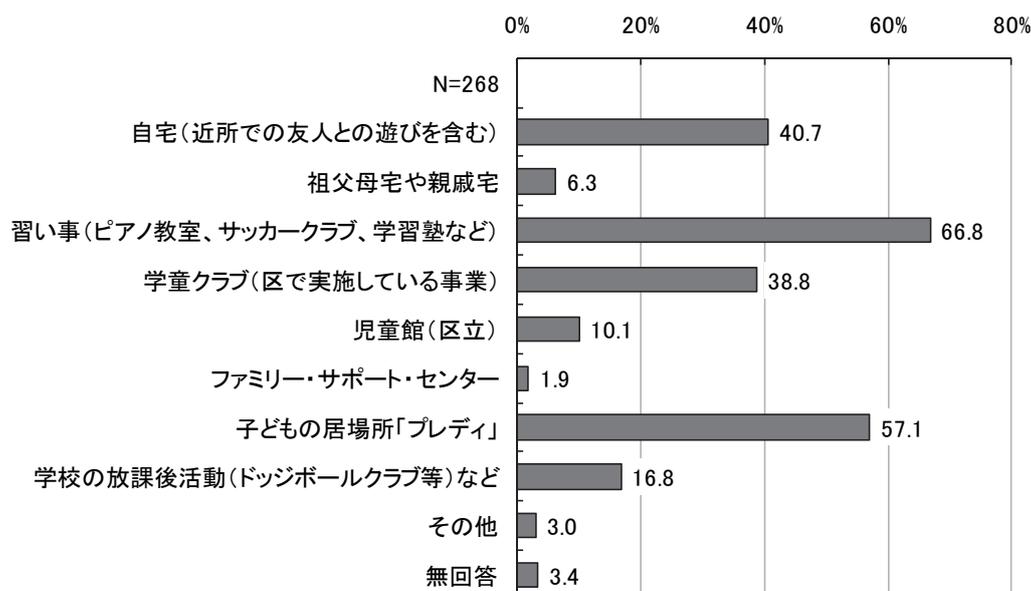
9. 小学校就学後の放課後の過ごし方について（5歳児のみ）

(1) 放課後の過ごし方について

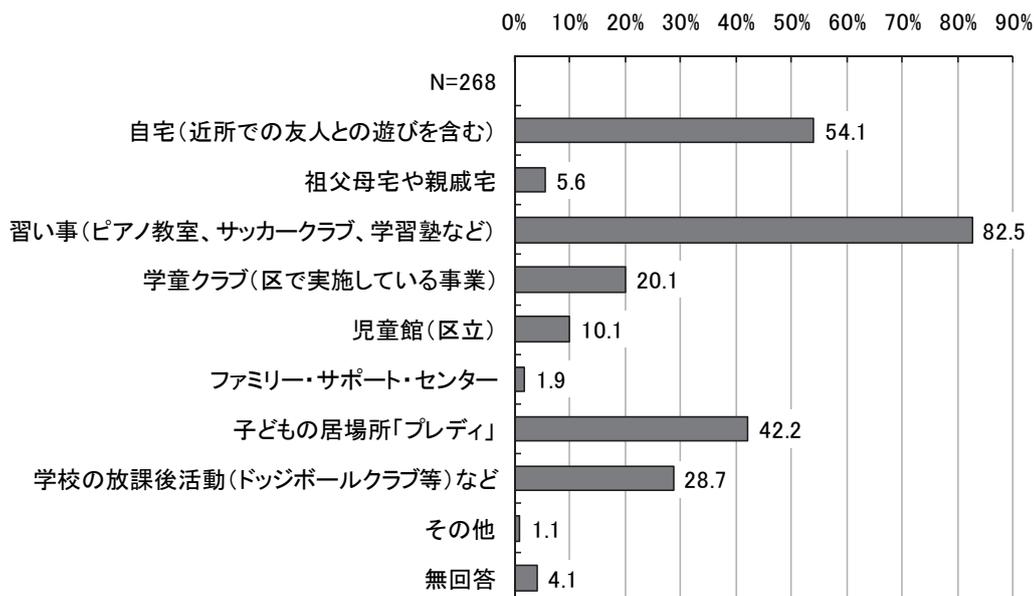
ア 保護者が希望する子どもの放課後の過ごし方

小学校低学年では、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が最も多く 66.8%、次いで「子どもの居場所「プレディ」」が 57.1%となっている。小学校高学年では、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が最も多く 82.5%、次いで「自宅（近所での友人との遊びを含む）」が 54.1%となっている。

■小学校低学年（複数回答設問）



■ 小学校高学年（複数回答設問）

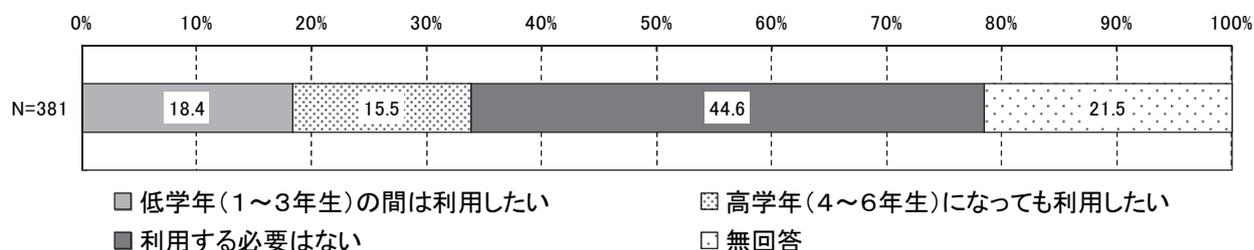


(2) 学童クラブ、子どもの居場所「プレディ」の利用希望

ア 利用希望（土曜日）

「利用する必要はない」が44.6%となっている。

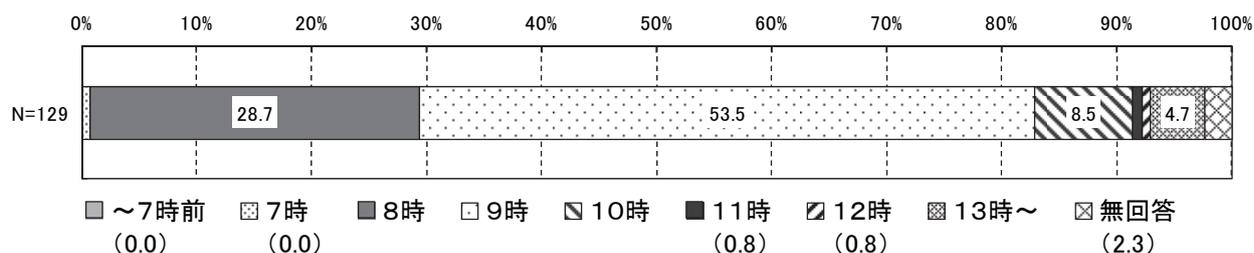
■ 利用希望（単数回答設問）



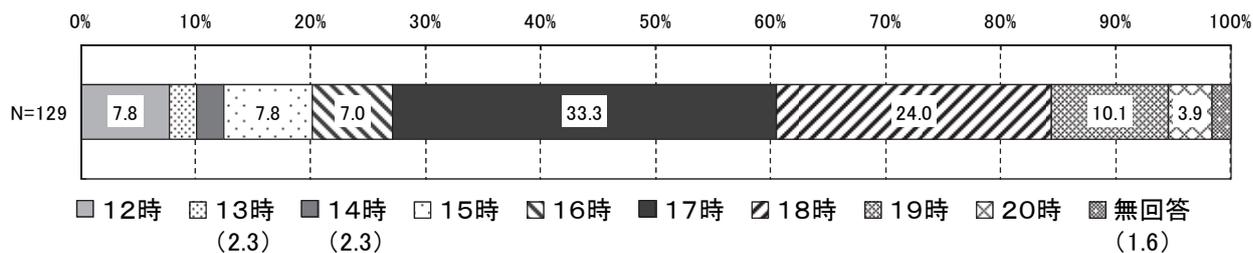
イ 利用したい時間帯（土曜日）

「利用したい時間帯」では、開始時間は「9時」が53.5%で最も多くなっている。終了時刻は「17時」が33.3%で最も多く、次いで「18時」で24.0%、「19時」で10.1%となっている。

■ 開始時刻（単数回答設問）



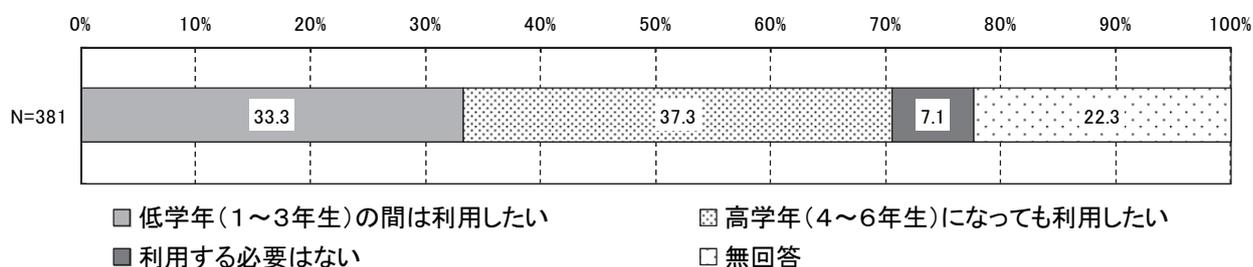
■ 終了時刻（単数回答設問）



ウ 利用希望（夏休み・冬休みなどの長期の休業期間中）

「高学年になっても利用したい」が37.3%となっている。

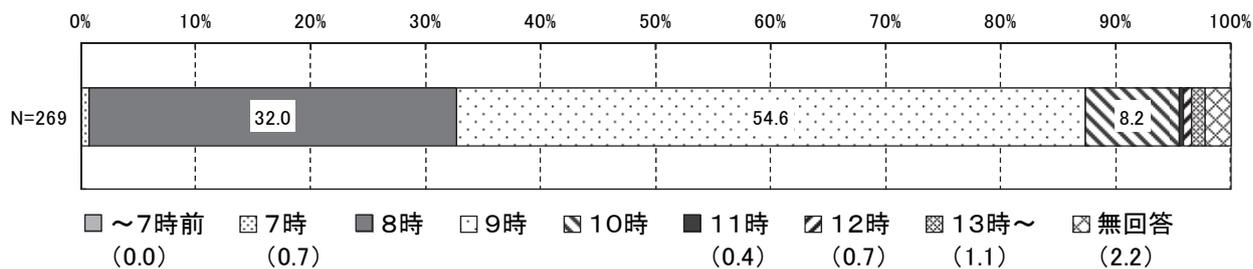
■ 利用希望（単数回答設問）



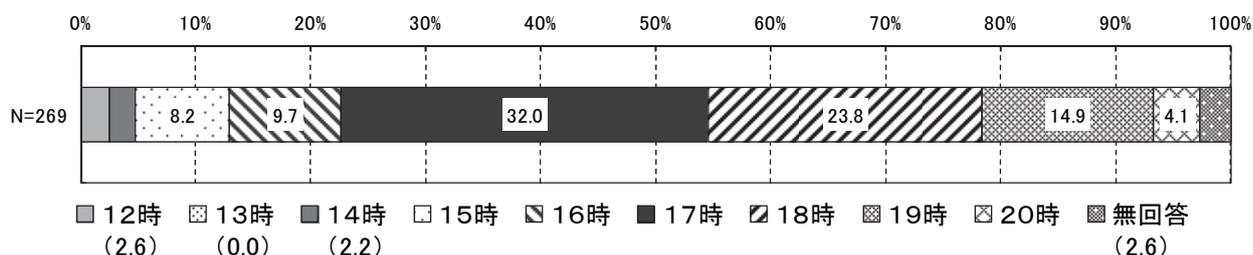
エ 利用したい時間帯（夏休み・冬休みなどの長期の休業期間中）

「利用したい時間帯」では、開始時間は「9時」が54.6%で最も多く、次いで「8時」が32.0%、「10時」が8.2%となっている。終了時間は「17時」が32.0%で最も多く、次いで「18時」が23.8%、「19時」が14.9%となっている。夏休み・冬休みなどの長期の休業期間中も土曜日と同様の時間帯での利用希望があると言える。

■ 開始時刻（単数回答設問）



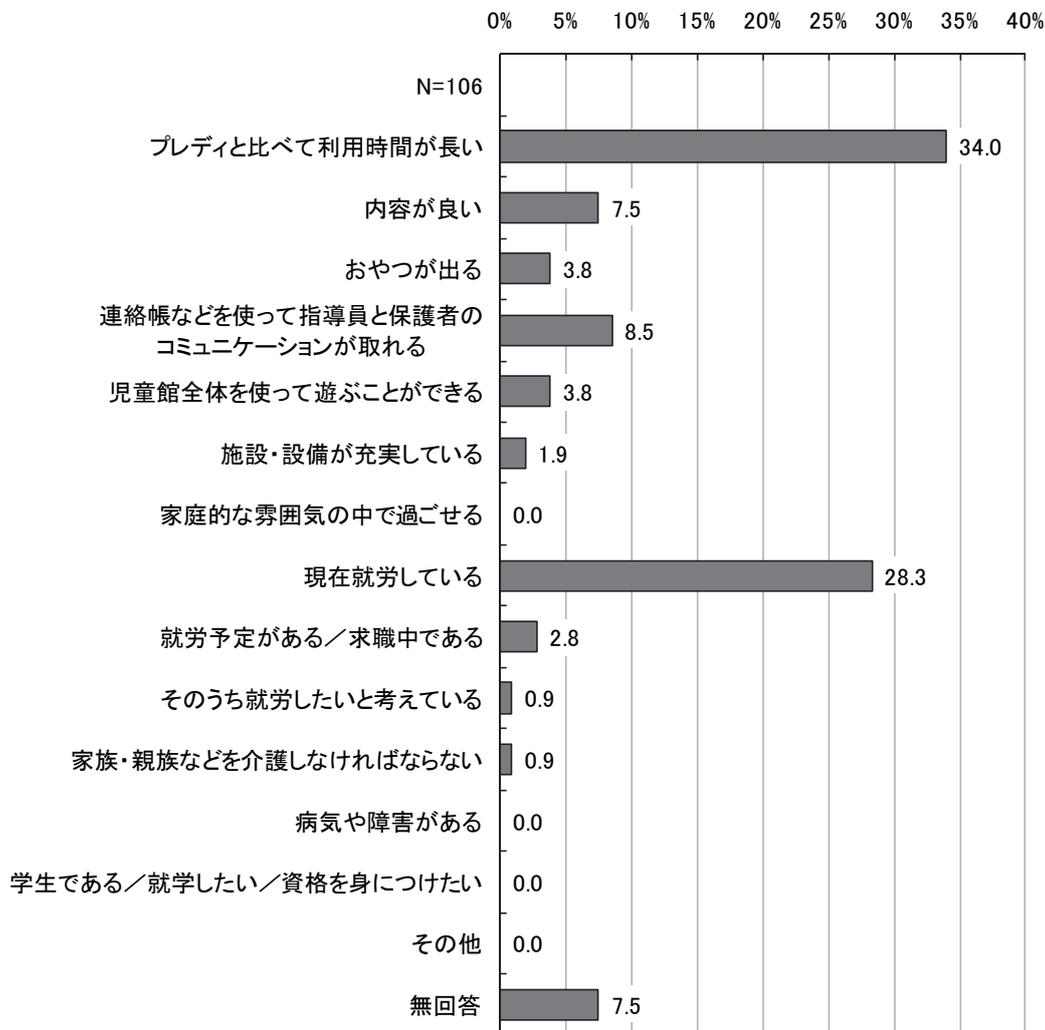
■ 終了時刻（単数回答設問）



(3) 学童クラブを利用したい理由

「プレディと比べて利用時間が長い」が最も多く 34.0%、次いで「現在就労している」が 28.3%となっている。

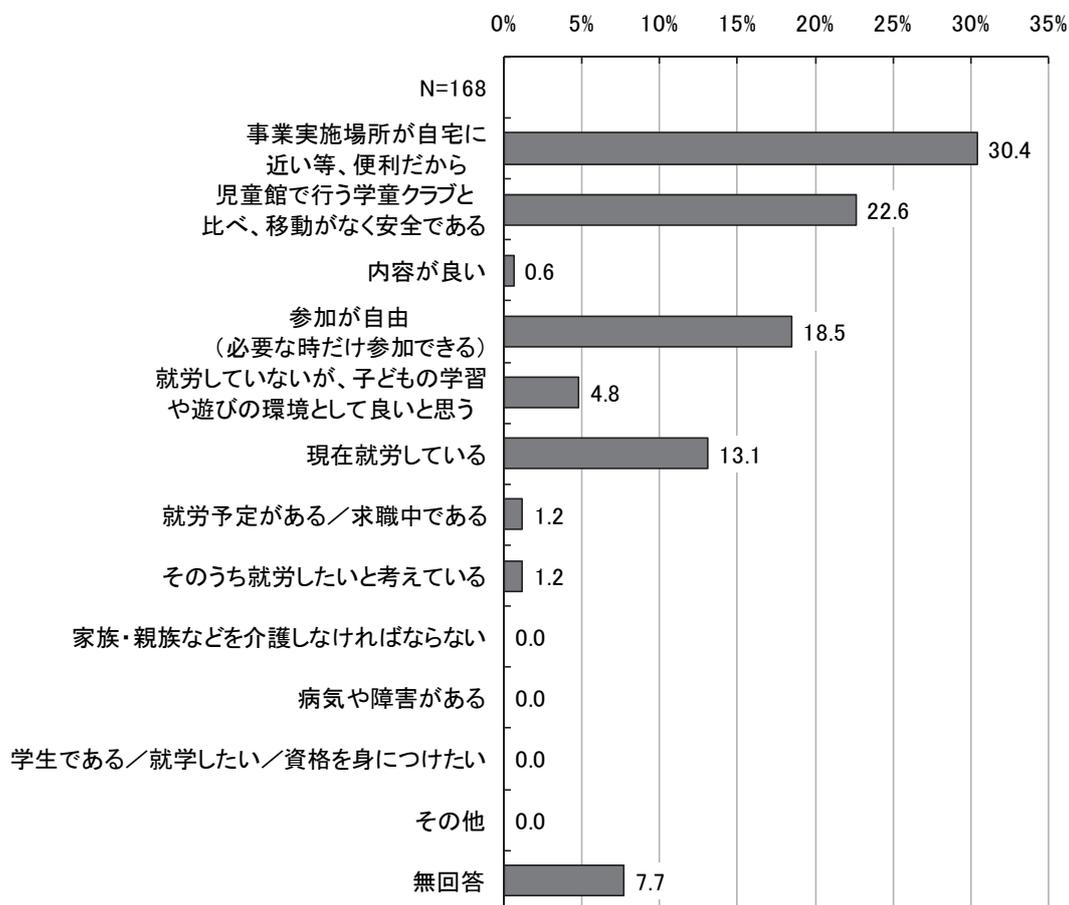
■学童クラブを利用したい理由（複数回答設問）



(4) 子どもの居場所「プレディ」を利用したい理由

「事業実施場所が自宅に近い等、便利だから」が最も多く 30.4%、次いで「児童館で行う学童クラブと比べ、移動がなく安全である」が 22.6%、「参加が自由（必要な時だけ参加できる）」が 18.5%、「現在就労している」が 13.1%となっている。

■子どもの居場所「プレディ」を利用したい理由（複数回答設問）



10. 放課後の過ごし方について（小学校児童）

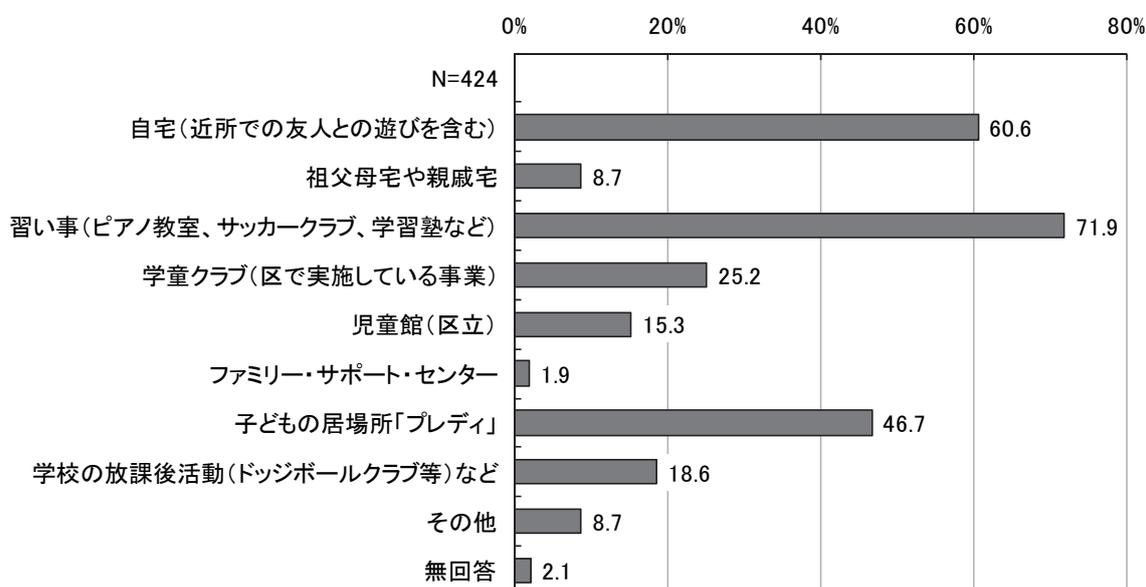
（１）放課後の過ごし方について

ア 小学生の保護者が希望する子どもの放課後の過ごし方

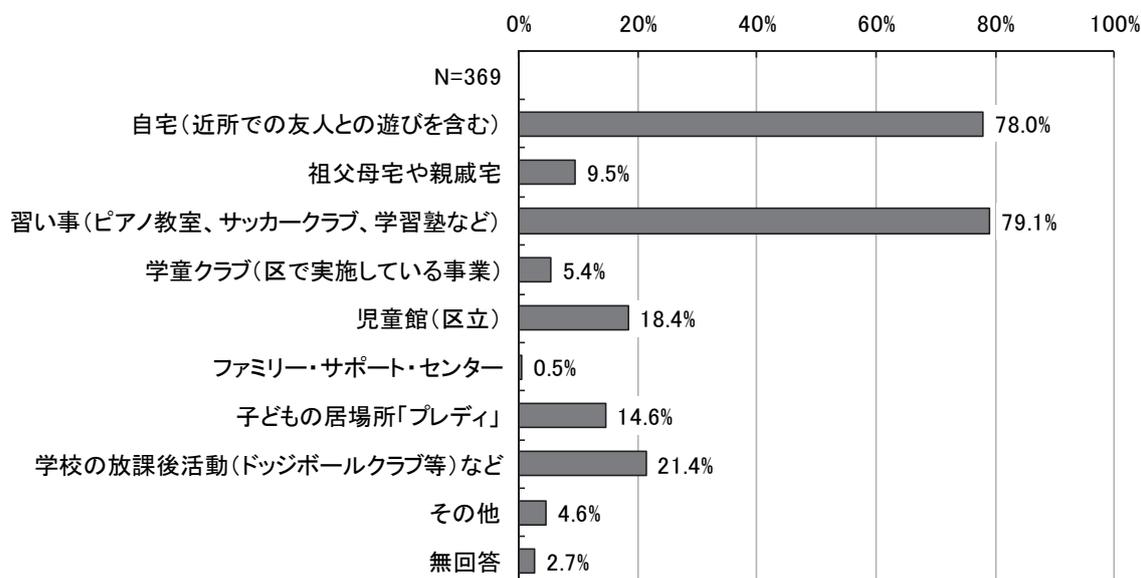
低学年では、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が最も多く 71.9%、次いで「自宅（近所での友人との遊びを含む）」が 60.6%、「子どもの居場所「プレディ」」が 46.7%となっている。

高学年では、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が最も多く 79.1%、次いで「自宅（近所での友人との遊びを含む）」が 78.0%、「学校の放課後活動（ドッジボールクラブ等）など」が 21.4%となっている。

■ 小学校低学年（複数回答設問）



■ 小学校高学年（複数回答設問）

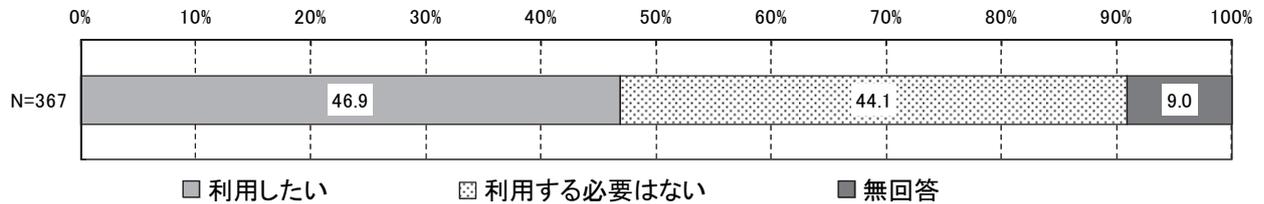


(2) 学童クラブ、子どもの居場所「プレディ」の利用希望

ア 利用希望（土曜日）

「利用したい」が46.9%、「利用する必要はない」が44.1%となっている。

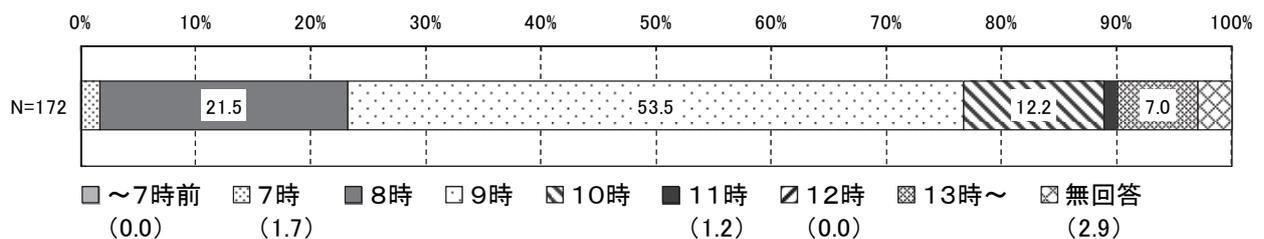
■利用希望（単数回答設問）



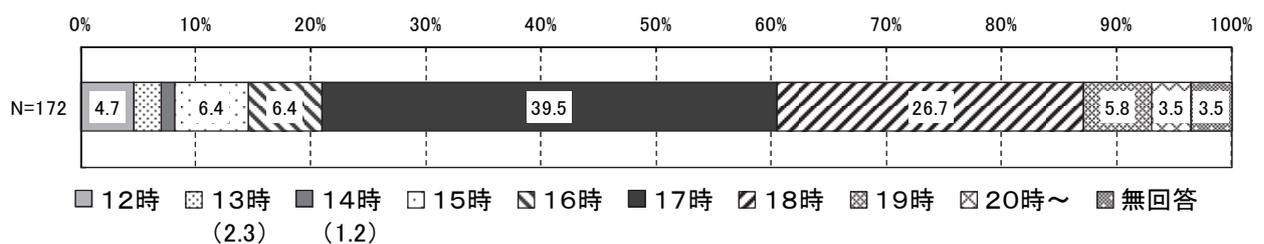
イ 利用したい時間帯（土曜日）

開始時刻は8～10時に集中しており、合わせると約9割となっている。特に「9時」は53.5%と、過半数となっている。終了時刻は、「17時」と「18時」の合計が6割半ばとなっている。また、「12時」が4.7%となっている。

■開始時刻（単数回答設問）



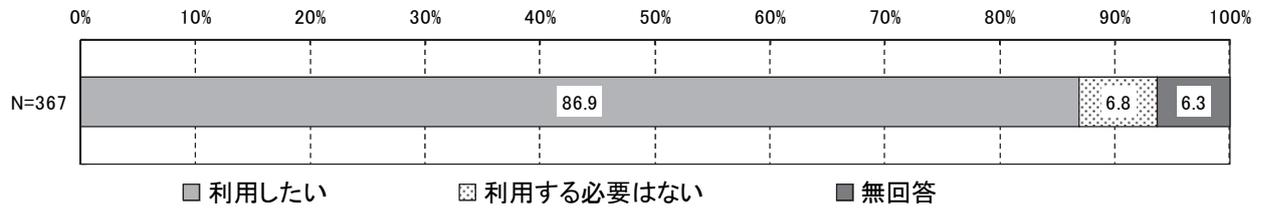
■終了時刻（単数回答設問）



ウ 利用希望（夏休み・冬休みなどの長期の休業期間中）

「利用したい」が86.9%となっている。

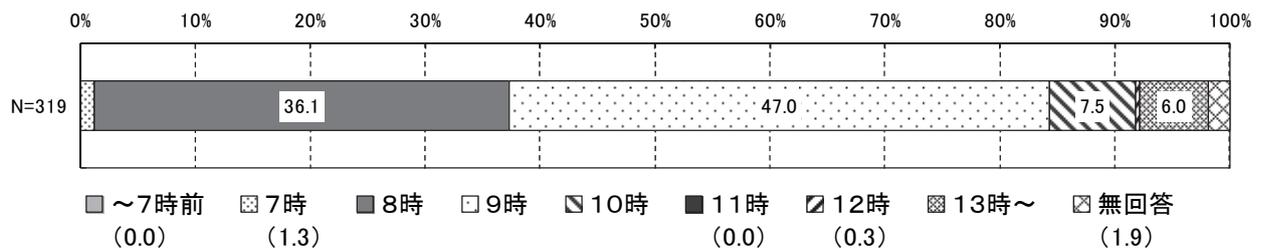
■利用希望（単数回答設問）



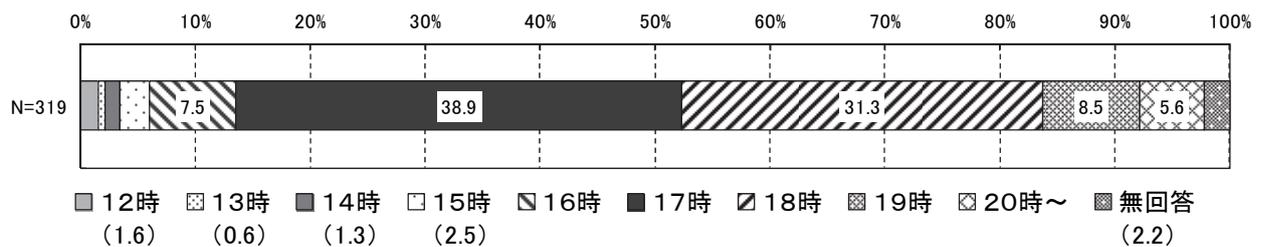
エ 利用したい時間帯（夏休み・冬休みなどの長期の休業期間中）

開始時刻は土曜日と同様、8～10時に集中しており、合わせると約9割となっている。しかし「8時」は36.1%と、土曜日の21.5%と比べ多く、早い時間からの利用を希望している。終了時刻は、土曜日と比べて大きな差はないが、「12時」は1.6%と少ない。

■開始時刻（単数回答設問）



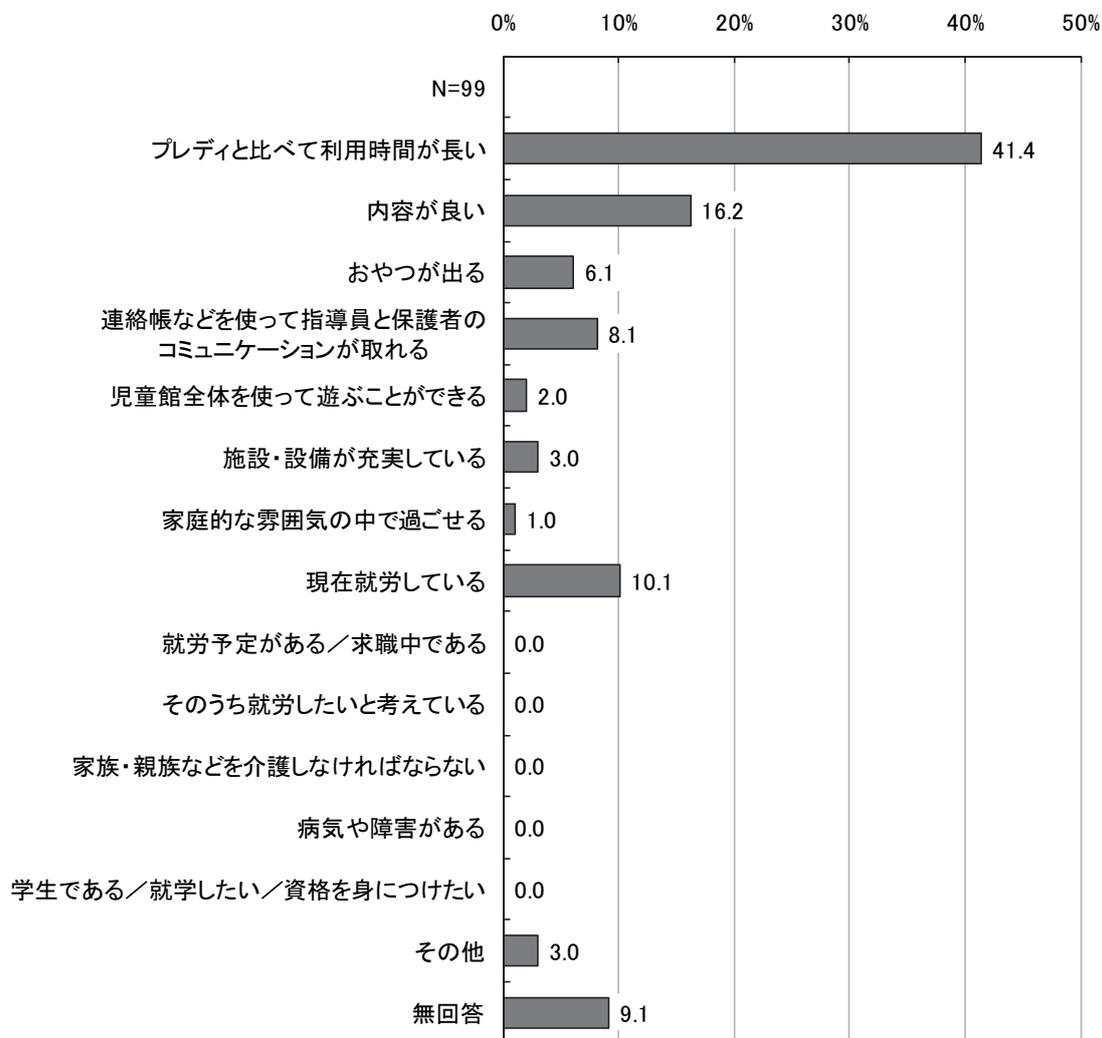
■終了時刻（単数回答設問）



(3) 学童クラブを利用したい理由

「プレディと比べて利用時間が長い」が最も多く 41.4%、次いで「内容が良い」が 16.2%となっている。

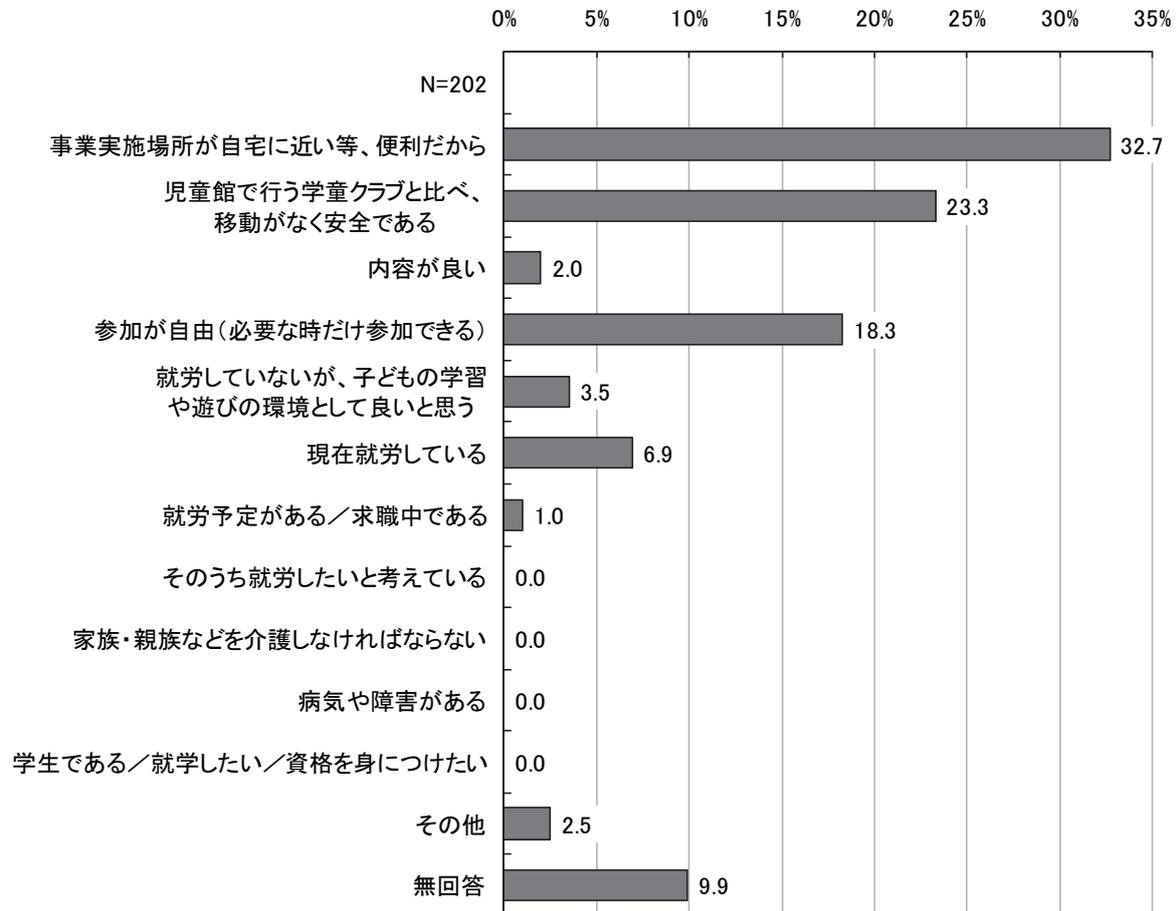
■学童クラブを利用したい理由（複数回答設問）



(4) 子どもの居場所「プレディ」を利用したい理由

「事業実施場所が自宅に近い等、便利だから」が最も多く 32.7%、次いで「児童館で行う学童クラブと比べ、移動がなく安全である」が 23.3%、「参加が自由（必要な時だけ参加できる）」が 18.3%、「現在就労している」が 6.9%となっている。

■子どもの居場所「プレディ」を利用したい理由（複数回答設問）

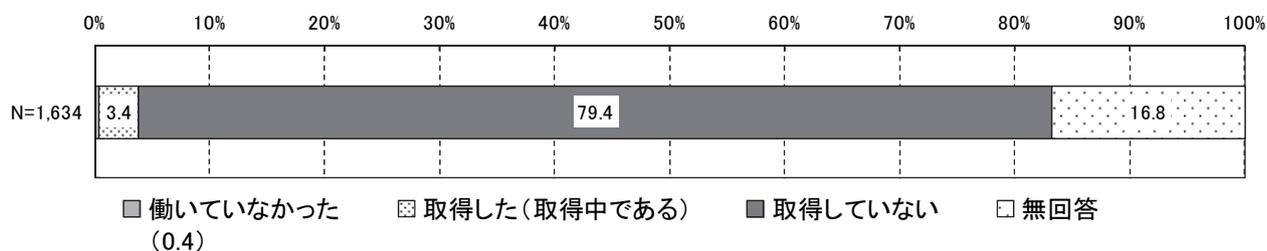


11. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について（就学前児童）

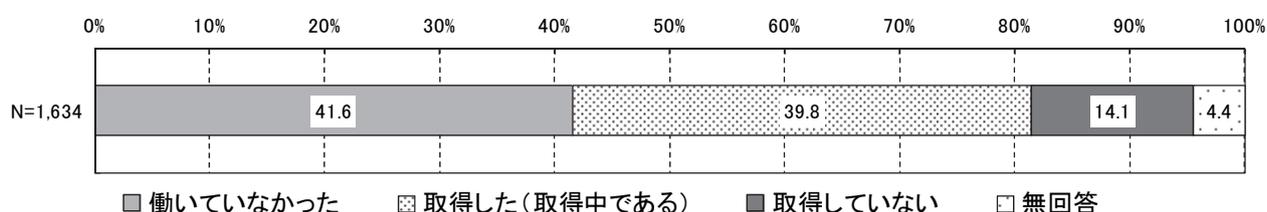
（1）育児休業制度の取得状況

母親では、「働いていなかった」が41.6%となっている。父親では、「取得していない」が79.4%となっている。

■父親（単数回答設問）



■母親（単数回答設問）

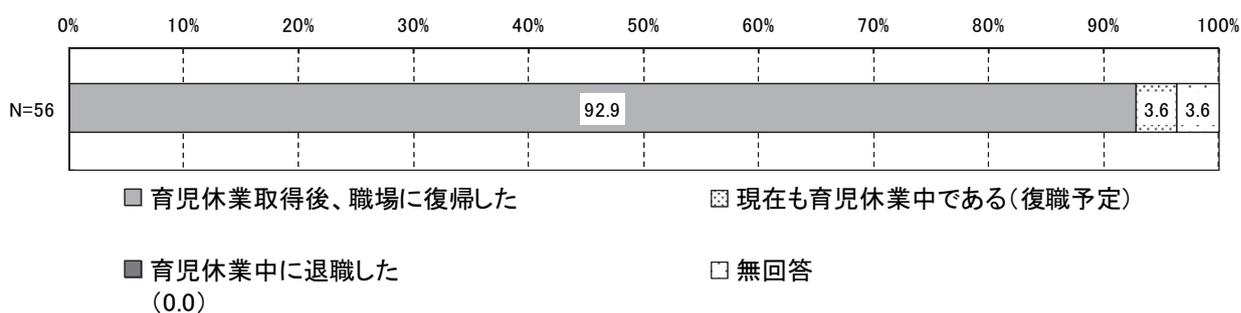


（2）育児休業の取得後の職場復帰

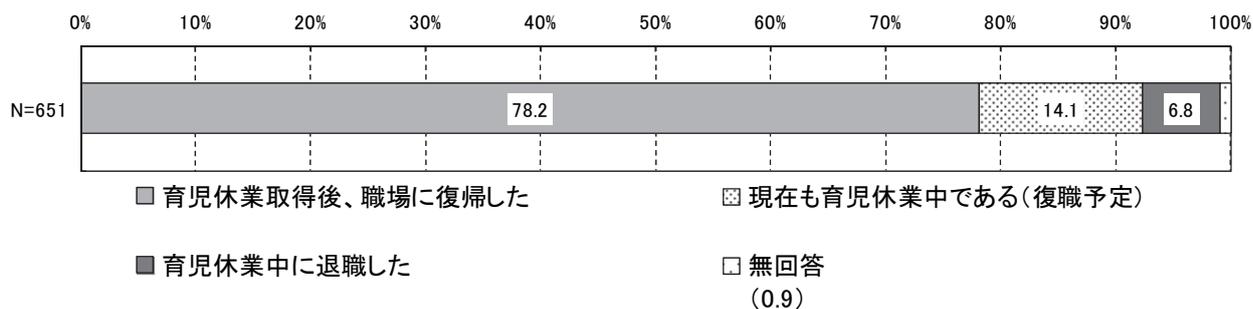
ア 職場復帰の状況

母親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が78.2%となっている。父親では、「育児休業取得後、職場に復帰した」が92.9%となっている。

■父親（育児休業を取得した方：単数回答設問）



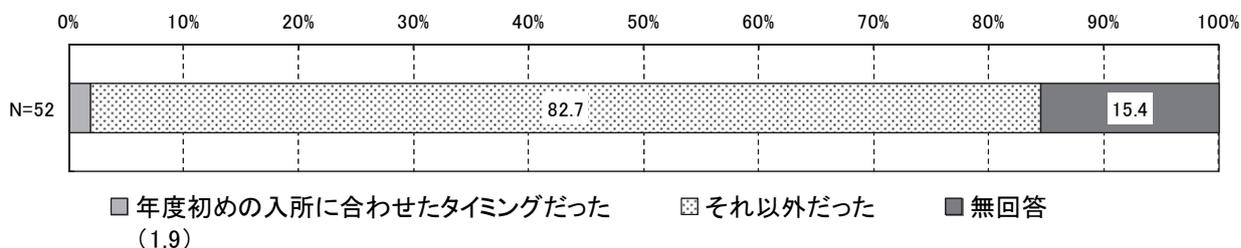
■ 母親（育児休業を取得した方：単数回答設問）



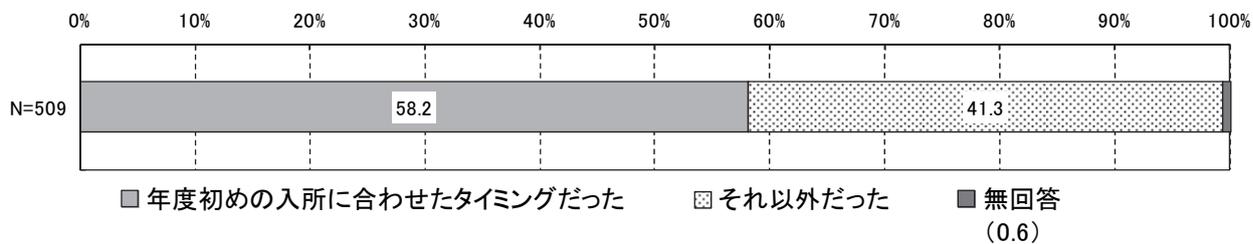
イ 職場復帰のタイミング

母親では、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」が 58.2%となっている。父親では、「それ以外だった」が 82.7%となっている。

■ 父親（単数回答設問）



■ 母親（単数回答設問）



12. 子どもの育ちや発達について

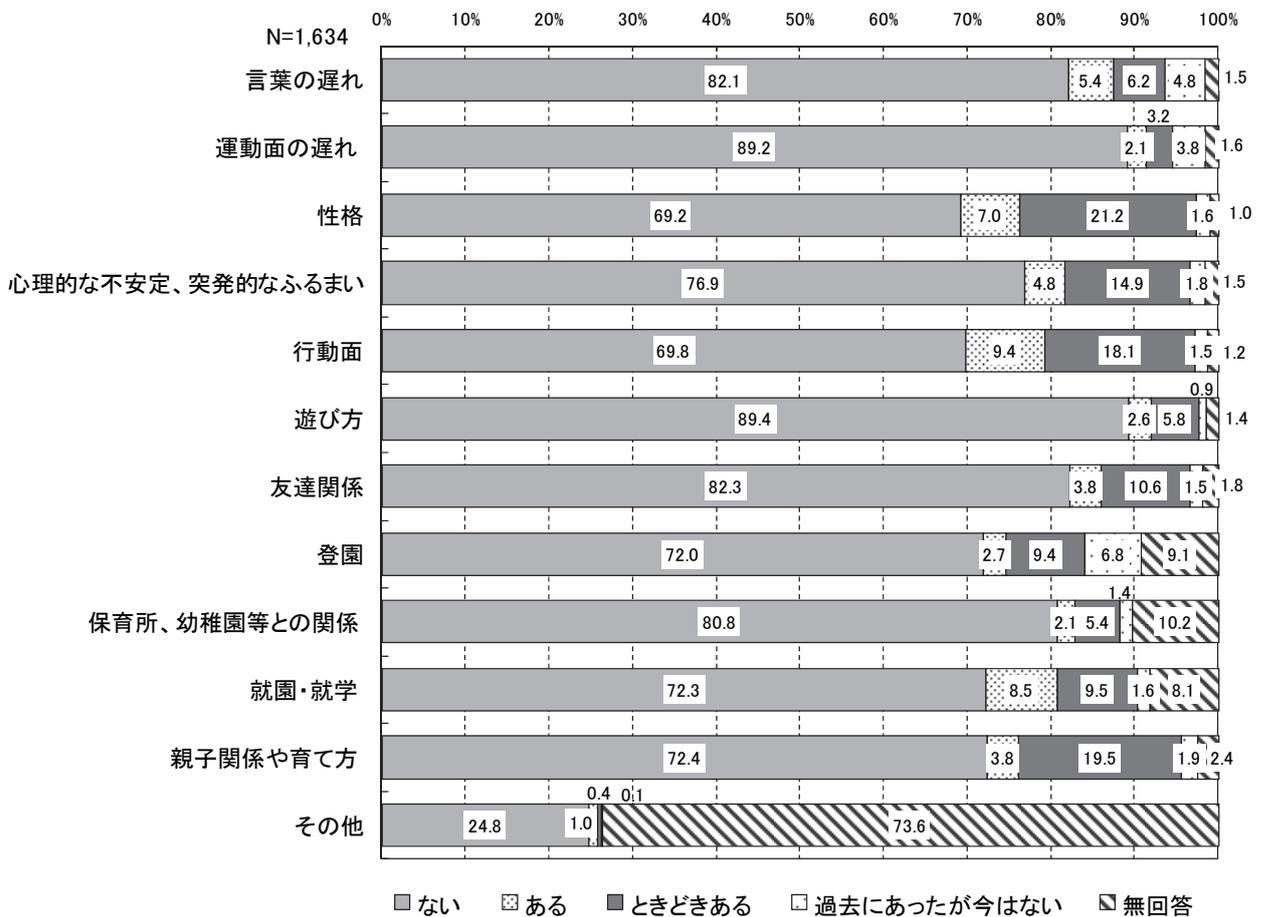
(1) 子どもの育ちや発達について

ア 子どもの育ちや発達について現時点での状況

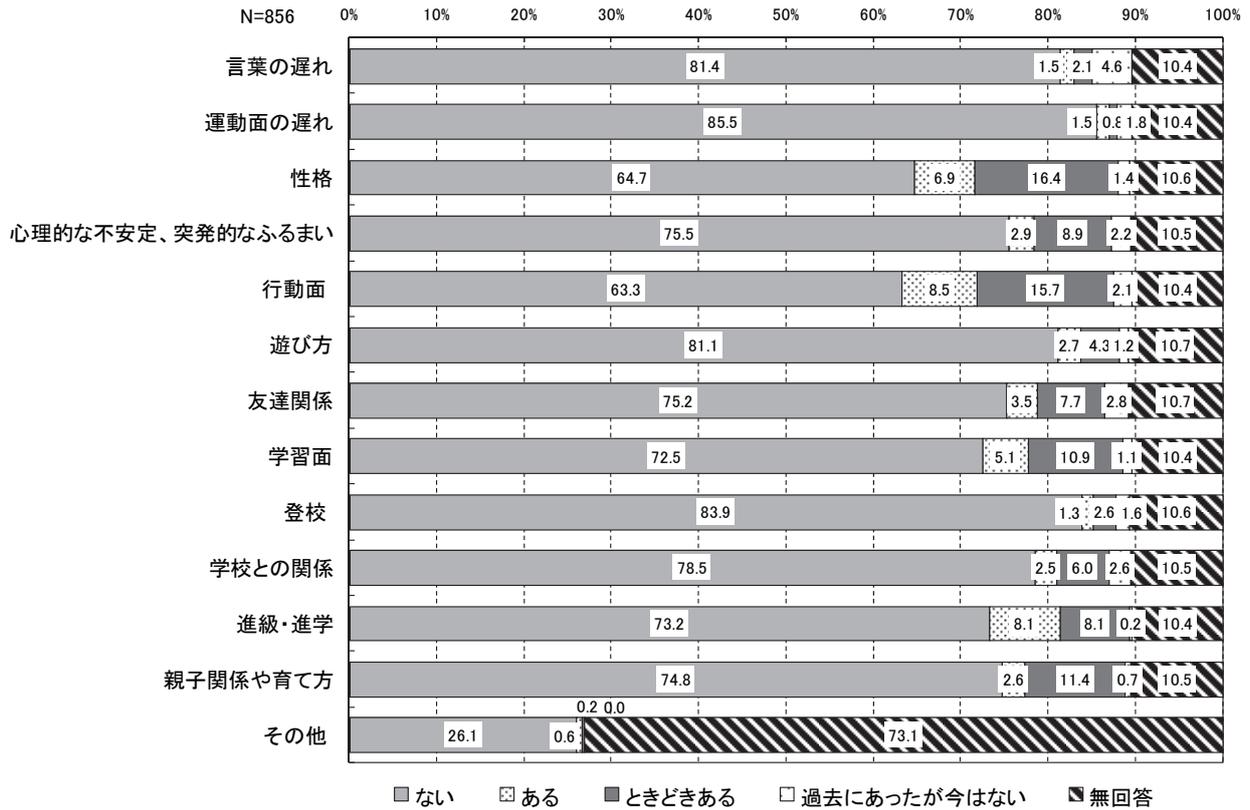
就学前児童では、全体的に「ない」が最も多く、「運動面の遅れ」・「遊び方」が約9割となっている。また、「ある」・「ときどきある」を合わせると、「性格」・「行動面」で約30%、「親子関係や育て方」・「心理的な不安定、突発的なふるまい」で約2割となっている。「過去にあったが今はない」が「登園」で6.8%、「言葉の遅れ」で4.8%となっている。

小学校児童では、全体的に「ない」が最も多く、「言葉の遅れ」・「運動面の遅れ」・「遊び方」・「登校」で8割を超えている。また、「ある」・「ときどきある」を合わせると、「行動面」・「性格」で約20%となっている。「過去にあったが今はない」は「言葉の遅れ」が4.6%、「友達関係」が2.8%、「学校との関係」が2.6%となっている。

■就学前児童（単数回答設問）



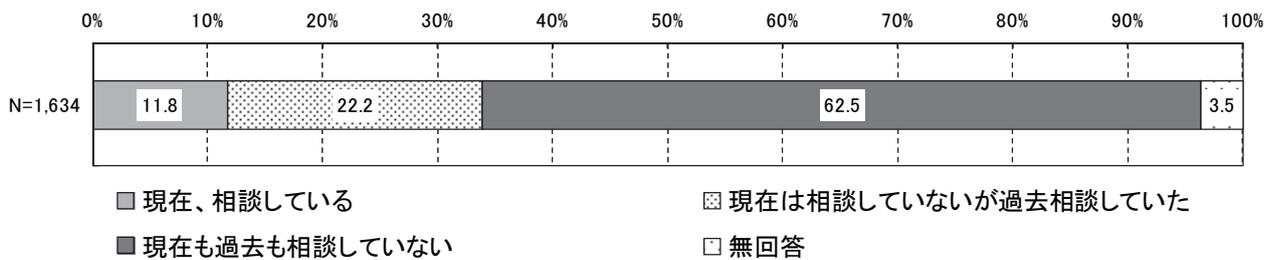
■ 小学校児童（単数回答設問）



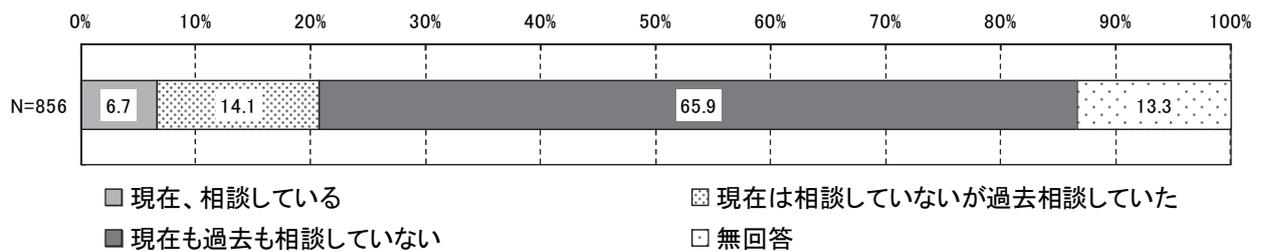
イ 子どもの育ちや発達について相談の状況

就学前児童・小学校児童ともに、「現在も過去も相談していない」が6割を超えている。

■ 就学前児童（単数回答設問）



■ 小学校児童（単数回答設問）

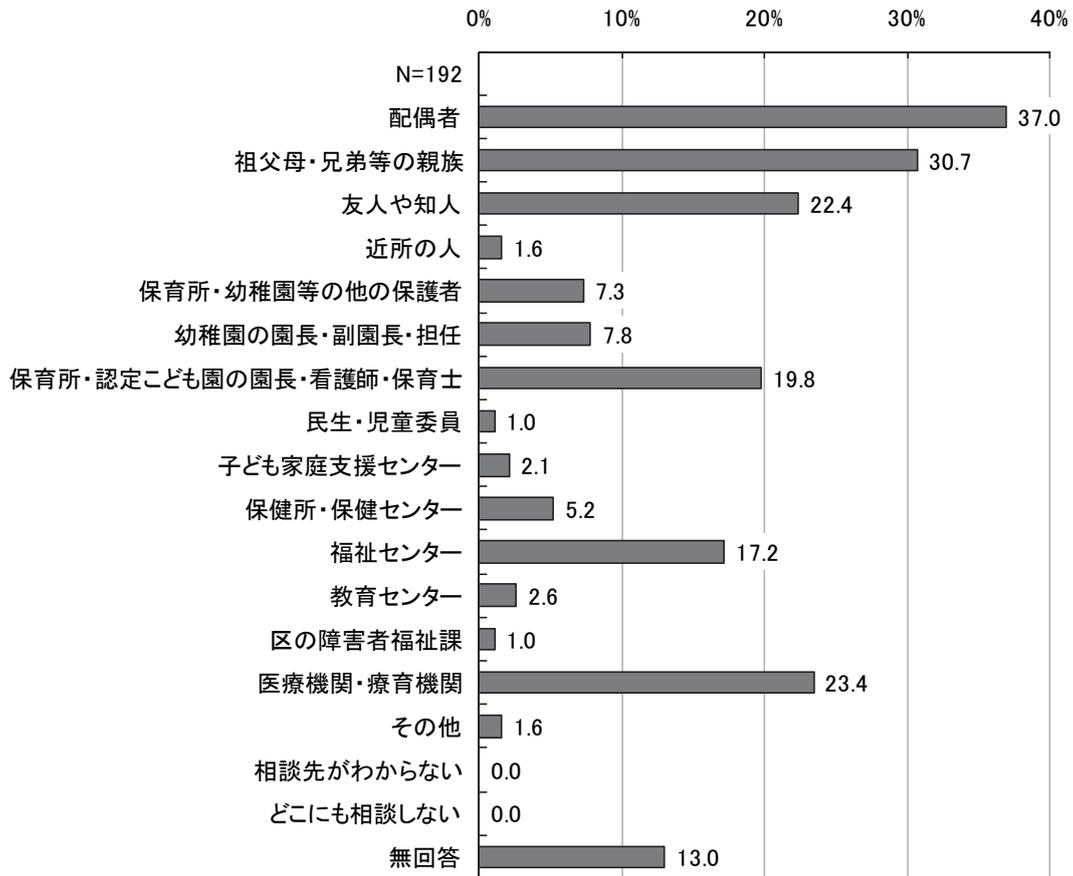


ウ 現在、相談している相談先

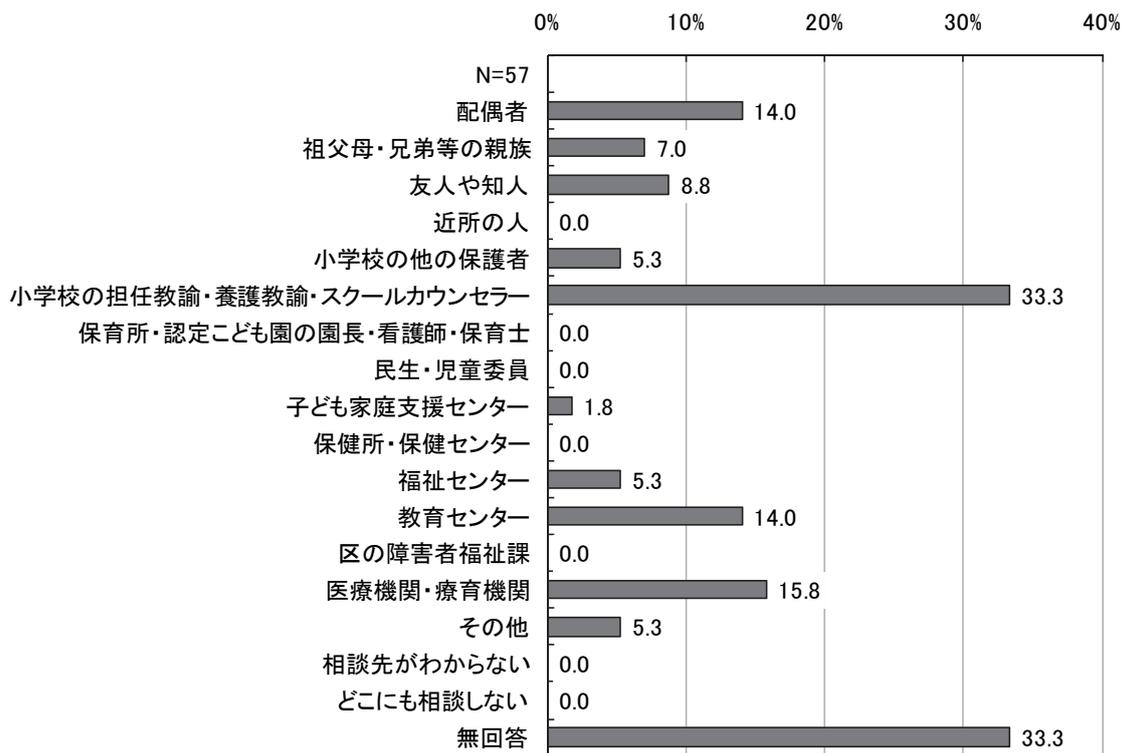
就学前児童では、「配偶者」が最も多く 37.0%、次いで「祖父母・兄弟等の親族」が 30.7%、「医療機関・療養機関」が 23.4%、「友人や知人」が 22.4%となっている。

小学校児童では、「小学校の担任教諭・養護教諭・スクールカウンセラー」が最も多く 33.3%、次いで「医療機関・療育機関」が 15.8%となっている。

■就学前児童（複数回答設問）



■ 小学校児童（複数回答設問）



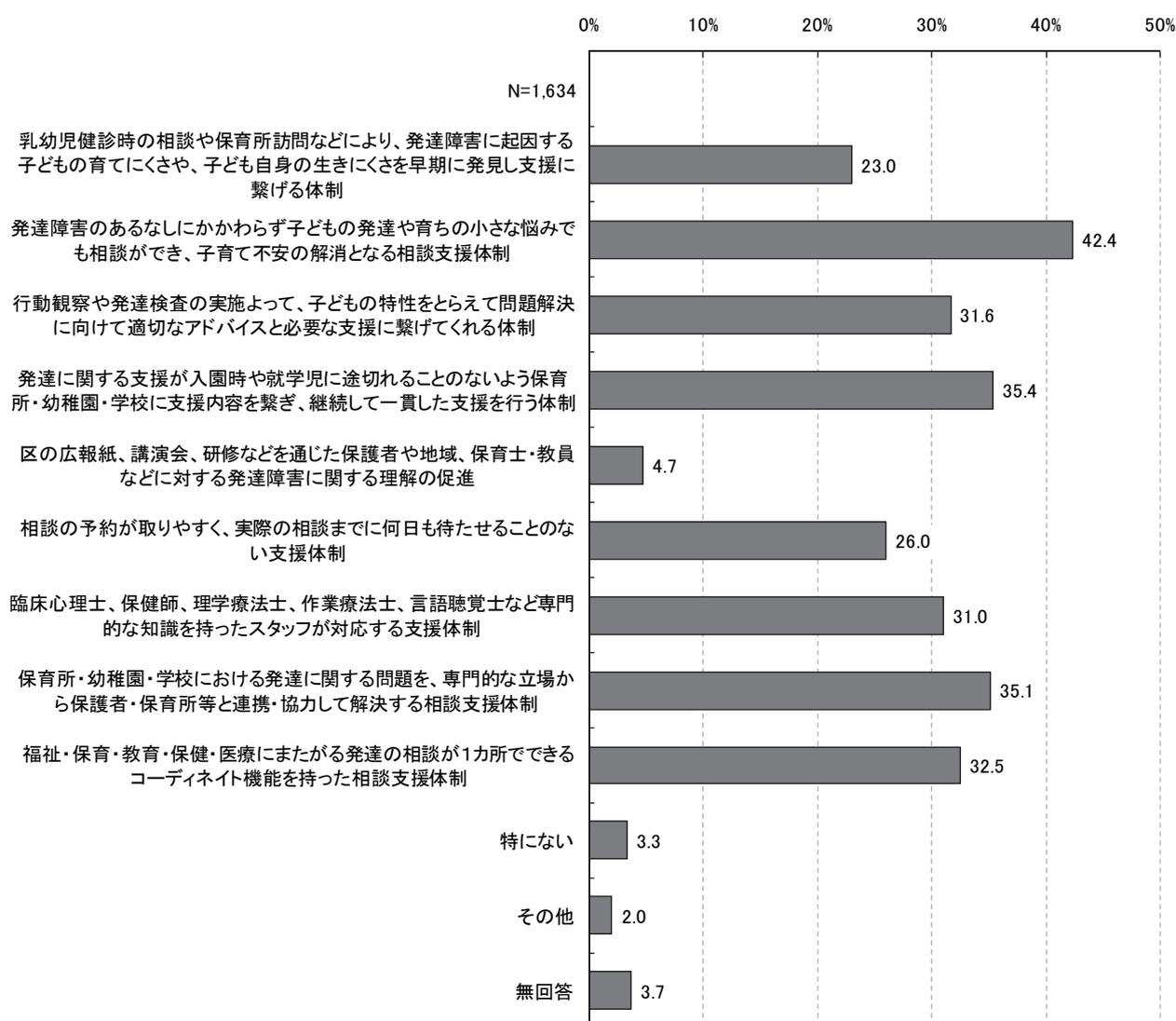
エ 子どもの育ちや発達に関する問題を解決するために優先するべきだと考えること

就学前児童・小学校児童ともに、「発達障害のあるなしにかかわらず子どもの育ちや発達の小さな悩みでも相談ができ、子育て不安の解消となる相談支援体制」が最も多く約4割である。

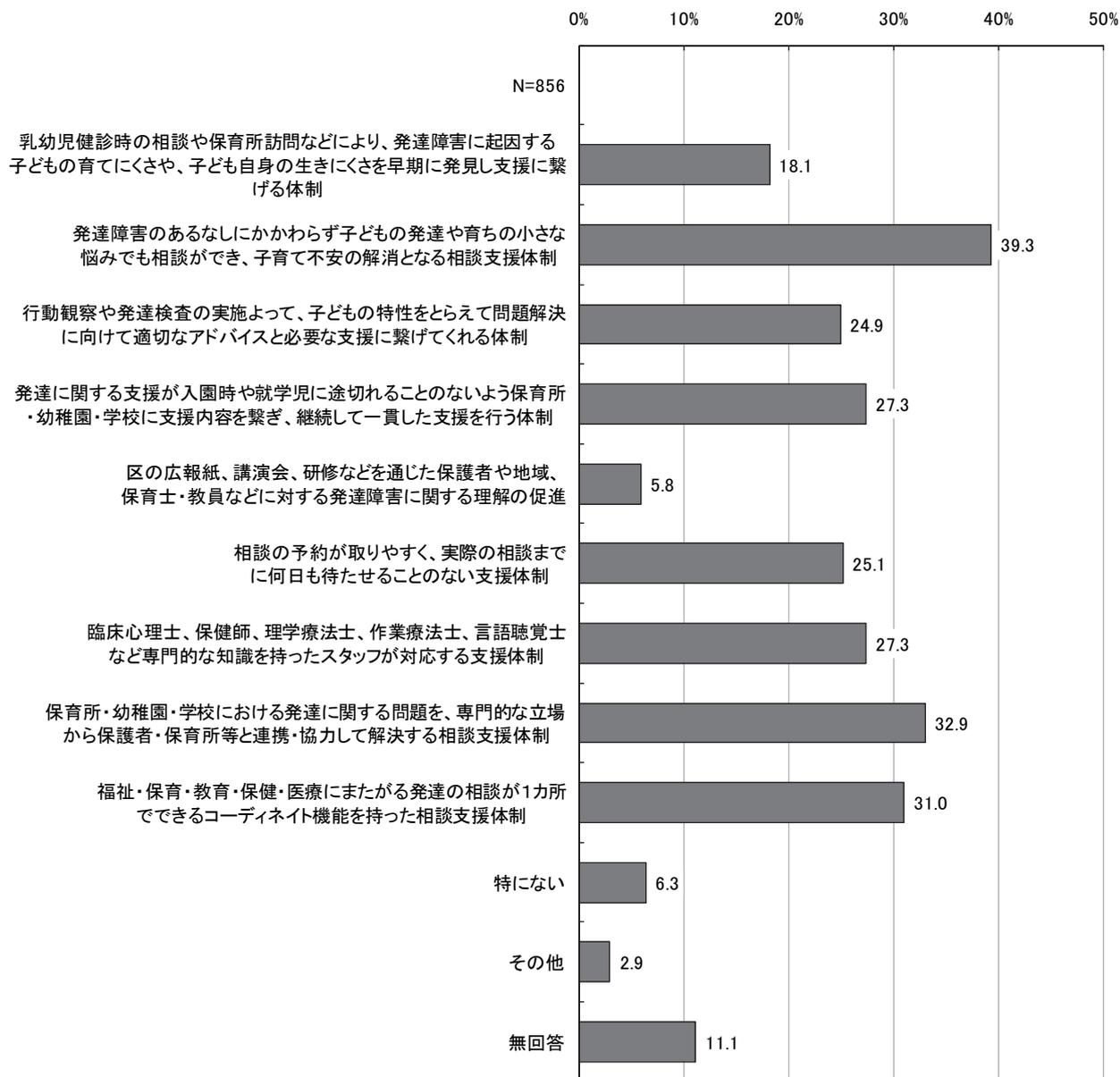
就学前児童では、次いで「発達に関する支援が入園時や就学児に途切れることのないよう保育所・幼稚園・学校に支援内容を繋ぎ、継続して一貫した支援を行う体制」が35.4%、「保育所・幼稚園・学校における発達に関する問題を、専門的な立場から保護者・保育所等と連携・協力して解決する相談支援体制」が35.1%となっている。

小学校児童では、次いで「保育所・幼稚園・学校における発達に関する問題を、専門的な立場から保護者・保育所等と連携・協力して解決する相談支援体制」が32.9%となっている。

■就学前児童（複数回答設問）



■ 小学校児童（複数回答設問）



【内容についてのお問合せ先】

中央区福祉保健部子育て支援課
〒104-8404 東京都中央区築地一丁目1番1号
電話：03-3546-5681（直通）

中央区子ども・子育て支援新制度における 利用希望把握調査 報告書（概要版）

平成 26（2014）年 3 月発行

刊行物登録番号
25-103

発行 中央区 福祉保健部管理課
〒104-8404 東京都中央区築地一丁目1番1号
電話：03-3546-5394（直通）

実施 株式会社 創建
〒105-0003 東京都港区西新橋三丁目23番5号
御成門郵船ビル7階
電話：03-6854-4311（代表）

リサイクル適性[®](A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。